

簡単インストーラ Ver.2.0

プロジェクト Ver..3.98 仕様書 (Ver.2.39 以降)

第1.0版

目次

1.	プロジェクトファイル仕様.....	5
1.1.	設定セクション.....	5
1.1.1.	[Project] セクション.....	5
1.1.2.	[Software] セクション.....	7
1.1.3.	[Installer] セクション.....	11
1.1.4.	[InstallLimit] セクション.....	15
1.1.5.	[ScreenSetting] セクション.....	18
1.1.6.	[FilesSetting]セクション.....	20
1.1.7.	[ShortCutSetting] セクション.....	21
1.1.8.	[RegistrySetting] セクション.....	22
1.1.9.	[IniFileSetting] セクション.....	23
1.1.10.	[ProgramSetting] セクション.....	24
1.1.11.	[SupportInfoSetting] セクション.....	25
1.1.12.	[DeleteFileSetting]セクション.....	26
1.1.13.	[DeleteRegistrySetting] セクション.....	27
1.1.14.	[UnDeleteFileSetting] セクション.....	28
1.1.15.	[UnDeleteRegistrySetting] セクション.....	29
1.1.16.	[UninstallSetting] セクション.....	30
1.1.17.	[InstallProcessOrderSetting]セクション.....	31
1.1.18.	[UnInstallProcessOrderSetting]セクション.....	32
1.1.19.	[SupportInfo] セクション.....	33
1.1.20.	[OSSetting] セクション.....	34
2.	詳細項目.....	35
2.1.	各項目の最大数.....	35
2.2.	形式.....	35
2.3.	インストール.....	36
2.3.1.	[Files] セクション.....	37
2.3.2.	[ShortCutItems] セクション.....	41
2.3.3.	[RegistryItems] セクション.....	42
2.3.4.	[IniFileItems] セクション.....	46
2.3.5.	[ProgramItems] セクション.....	50
2.3.6.	[DeleteFileItems]セクション.....	54
2.3.7.	[DeleteRegistryItems] セクション.....	55
2.4.	アンインストール.....	57
2.4.1.	[UnInstallFile]セクション.....	57
2.4.2.	[UnInstallIniFile]セクション.....	58
2.4.3.	[UnInstallRegistry]セクション.....	59
2.5.	条件指定.....	60
2.5.1.	[UnDeleteFileItems] セクション.....	60
2.5.2.	[UnDeleteRegistryItems] セクション.....	61
2.5.3.	[InstallProcessOrderItems] セクション.....	62
2.5.4.	[UnInstallProcessOrderItems] セクション.....	63
2.6.	デフォルト値一覧.....	64
2.6.1.	[Project]セクション.....	64
2.6.2.	[Software]セクション.....	64
2.6.3.	[Installer]セクション.....	64
2.6.4.	[InstallLimit]セクション.....	65

2.6.5.	[ScreenSetting]セクション	65
2.6.6.	[FilesSetting]セクション	65
2.6.7.	[ShortCutSetting]セクション	65
2.6.8.	[RegistrySetting]セクション	66
2.6.9.	[IniFileSetting]セクション	66
2.6.10.	[ProgramSetting]セクション	66
2.6.11.	[SupportInfoSetting]	66
2.6.12.	[DeleteFileSetting]	66
2.6.13.	[DeleteRegistrySetting]	66
2.6.14.	[UnDeleteFileSetting]	66
2.6.15.	[UnDeleteRegistrySetting]	66
2.6.16.	[InstallProcessOrderSetting]	66
2.6.17.	[UnInstallProcessOrderSetting]	66
2.7.	プロジェクトファイルで使用可能な文字	67

本書について

簡単インストーラ Ver.2.0 に関する仕様を記載したものです。

- :仕様としては確定しているが、将来的にも使用予定がない部分
- :仕様としては確定しているが、未実装な部分
- :旧仕様のため、現在は未使用か別の設定に移行

1. プロジェクトファイル仕様

1.1. 設定セクション

1.1.1. [Project] セクション

プロジェクトファイル毎に固有の設定を行う。

値名	説明/設定値	データ型																		
ProjectName	プロジェクトファイルのプロジェクト名を指定。	文字列型																		
UseUniqueKey	アンインストール情報を作成する際プロジェクト名を元に作成するが、その際に既存のアンインストールキーが存在した場合別のキーを自動生成するかどうかを指定 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効	数値型												
値	機能																			
0	無効																			
1	有効																			
MajorVersion	プロジェクトファイルのメジャーバージョンを指定。3 固定	数値型																		
MinorVersion	プロジェクトファイルのマイナーバージョンを指定。92 固定	数値型																		
CreateDateTime	プロジェクトファイルの作成された日時を指定。	日付型																		
UpdateDateTime	プロジェクトファイルの最終更新日を指定。	日付型																		
CreateFolder	作成するインストールファイルの作成先のフォルダをフルパスで指定。	文字列型																		
CreateFileName	作成するインストールファイルのファイル名を指定。 ファイル名にはフォルダを含めない。 ファイル名には下記の変数を使用可能 <table border="1"> <thead> <tr> <th>変数</th> <th>変数内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>%VER_MAJOR%</td> <td>メジャーバージョン</td> </tr> <tr> <td>%VER_MINOR</td> <td>マイナーバージョン</td> </tr> <tr> <td>%VER_RELEASE%</td> <td>リリースバージョン</td> </tr> <tr> <td>%VER_BUILD%</td> <td>ビルドバージョン</td> </tr> <tr> <td>%VER_OTHER%</td> <td>その他バージョン</td> </tr> <tr> <td>%CDATE%</td> <td>作成日</td> </tr> <tr> <td>%CTIME%</td> <td>作成時間</td> </tr> <tr> <td>%CDATETIME%</td> <td>作成日時</td> </tr> </tbody> </table>	変数	変数内容	%VER_MAJOR%	メジャーバージョン	%VER_MINOR	マイナーバージョン	%VER_RELEASE%	リリースバージョン	%VER_BUILD%	ビルドバージョン	%VER_OTHER%	その他バージョン	%CDATE%	作成日	%CTIME%	作成時間	%CDATETIME%	作成日時	文字列型
変数	変数内容																			
%VER_MAJOR%	メジャーバージョン																			
%VER_MINOR	マイナーバージョン																			
%VER_RELEASE%	リリースバージョン																			
%VER_BUILD%	ビルドバージョン																			
%VER_OTHER%	その他バージョン																			
%CDATE%	作成日																			
%CTIME%	作成時間																			
%CDATETIME%	作成日時																			
CreateFileType	作成するインストールファイルの種類を指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>作成時にファイルの種類を指定する</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>圧縮しないで指定された場所にコピーする</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>LHA 自己解凍形式のファイルを作成する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>LHA 圧縮ファイルを作成する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>CAB 自己解凍形式のファイルを作成する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>CAB 圧縮ファイルを作成する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	作成時にファイルの種類を指定する	1	圧縮しないで指定された場所にコピーする	2	LHA 自己解凍形式のファイルを作成する	3	LHA 圧縮ファイルを作成する	4	CAB 自己解凍形式のファイルを作成する	5	CAB 圧縮ファイルを作成する	数値型				
値	機能																			
0	作成時にファイルの種類を指定する																			
1	圧縮しないで指定された場所にコピーする																			
2	LHA 自己解凍形式のファイルを作成する																			
3	LHA 圧縮ファイルを作成する																			
4	CAB 自己解凍形式のファイルを作成する																			
5	CAB 圧縮ファイルを作成する																			
CreateFileCompLevel	作成するインストールファイルの圧縮ファイルの圧縮レベルを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>低圧縮</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>標準</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>高圧縮</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	低圧縮	1	標準	2	高圧縮	数値型										
値	機能																			
0	低圧縮																			
1	標準																			
2	高圧縮																			

値名	説明/設定値	データ型														
ProjectType	プロジェクトファイルの種別を指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>インストーラ</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>予約</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	インストーラ	1	予約	数値型								
値	機能															
0	インストーラ															
1	予約															
CreateFolderBeforeBackup	CreateFileTypeにて1が設定されている場合に指定フォルダ内のファイルをバックアップするかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効	数値型								
値	機能															
0	無効															
1	有効															
CreateFileNameOption	インストールファイルの作成時にファイル名を変換するかどうかを設定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>ファイル名を変換しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>ファイル名を小文字に変換</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ファイル名を大文字に変換</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	ファイル名を変換しない	1	ファイル名を小文字に変換	2	ファイル名を大文字に変換	数値型						
値	機能															
0	ファイル名を変換しない															
1	ファイル名を小文字に変換															
2	ファイル名を大文字に変換															
InstallerModuleName	インストーラのモジュールファイルを指定。	文字列														
InstallerModuleKey	インストーラのモジュール識別キーを指定。	文字列														
InstallerModuleLanguage	インストーラの言語コードを指定。 指定した言語が存在しない場合は環境不一致でインストール処理を中止する。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>言語コード</th> <th>言語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>自動認識。 この場合、デフォルトの言語は英語となる。</td> </tr> <tr> <td>1041</td> <td>日本語</td> </tr> <tr> <td>1033</td> <td>英語</td> </tr> <tr> <td>1031</td> <td>ドイツ語</td> </tr> <tr> <td>1040</td> <td>イタリア語</td> </tr> <tr> <td>上記以外</td> <td>言語コードは「簡単インストーラ Ver.2.x 言語ファイル仕様書」参照のこと</td> </tr> </tbody> </table>	言語コード	言語	0	自動認識。 この場合、デフォルトの言語は英語となる。	1041	日本語	1033	英語	1031	ドイツ語	1040	イタリア語	上記以外	言語コードは「簡単インストーラ Ver.2.x 言語ファイル仕様書」参照のこと	数値型
言語コード	言語															
0	自動認識。 この場合、デフォルトの言語は英語となる。															
1041	日本語															
1033	英語															
1031	ドイツ語															
1040	イタリア語															
上記以外	言語コードは「簡単インストーラ Ver.2.x 言語ファイル仕様書」参照のこと															

1.1.2. [Software] セクション

インストールするアプリケーションに関する情報を指定。

値名	説明/設定値	データ型						
InstallerTitle	インストーラのタイトルを指定。	文字列型						
SoftName	アプリケーション名を指定。	文字列型						
Copyright	インストール時に表示される著作権表示を指定。 [ScreenSetting]セクションの Panel10 が無効に設定されている場合ここでの値は無視。	文字列型						
FolderTargetChange	インストール先の初期フォルダにおいて、対象となる OS 毎に切り替えるかを指定。対象となる OS の初期フォルダが指定されていない場合は共通のインストール先フォルダである Folder の設定値を使用する。 <table border="1" data-bbox="464 600 1294 725"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>すべての OS で共通の初期フォルダを使用する (Folder の値を使用)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>OS 毎に個別の初期フォルダを使用する。(FolderXXX の値を使用)</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	すべての OS で共通の初期フォルダを使用する (Folder の値を使用)	1	OS 毎に個別の初期フォルダを使用する。(FolderXXX の値を使用)	数値型
値	機能							
0	すべての OS で共通の初期フォルダを使用する (Folder の値を使用)							
1	OS 毎に個別の初期フォルダを使用する。(FolderXXX の値を使用)							
Folder	インストール先の初期フォルダを指定。	文字列型						
FolderWin95	Windows 95 のインストール先の初期フォルダを指定。	文字列						
FolderWin98	Windows98(Windows 98 Second Edition 含む)のインストール先の初期フォルダを指定。	文字列						
FolderWinME	Windows Me のインストール先の初期フォルダを指定。	文字列						
FolderWinNT	Windows NT のインストール先の初期フォルダを指定。	文字列						
FolderWin2000	Windows 2000 のインストール先の初期フォルダを指定。	文字列						
FolderWinXP	Windows XP のインストール先の初期フォルダを指定。	文字列						
FolderWin2003	Windows 2003 Server のインストール先の初期フォルダを指定。	文字列						
FolderWinVista	Windows Vista のインストール先の初期フォルダを指定。	文字列						
InstallFolderOption	インストール先フォルダに関するオプションを指定 <table border="1" data-bbox="464 1223 1294 1424"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>初期インストール先フォルダが変更された場合、<Folder>で指定しているパラメータを付加する。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td><Folder>で指定されているパラメータ付加をルートディレクトリが選択された場合に限定する。(ビット0が ON である場合のみ有効)</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	機能	0	初期インストール先フォルダが変更された場合、<Folder>で指定しているパラメータを付加する。	1	<Folder>で指定されているパラメータ付加をルートディレクトリが選択された場合に限定する。(ビット0が ON である場合のみ有効)	数値型
ビット	機能							
0	初期インストール先フォルダが変更された場合、<Folder>で指定しているパラメータを付加する。							
1	<Folder>で指定されているパラメータ付加をルートディレクトリが選択された場合に限定する。(ビット0が ON である場合のみ有効)							
SearchFileDir	Folder に下記定数を使用する場合で該当するフォルダが存在しなかった場合に使用されるフォルダを指定。(共通の指定)FolderTargetChange に 1 が指定されている場合は無効。フォルダが検索できなかった場合中断とする。 %SearchFileDir% %SearchFileDirEx% %RegistryDir% %RegistryPath% %RegistryDirEx% %RegistryPathEx% %IniFileDir% %IniFilePath% %IniFileDirEx% %IniFilePathEx%	文字列型						
SearchFileDirWin95	FolderWin95 に下記定数を使用する場合で該当するフォルダが存在しなかった場合に使用されるフォルダを指定。							

値名	説明/設定値	データ型						
SearchFileDirWin98	FolderWin98 に下記定数を使用する場合で該当するフォルダが存在しなかった場合に使用されるフォルダを指定。							
SearchFileDirWinME	FolderWinME に下記定数を使用する場合で該当するフォルダが存在しなかった場合に使用されるフォルダを指定。							
SearchFileDirWinNT	FolderWinNT に下記定数を使用する場合で該当するフォルダが存在しなかった場合に使用されるフォルダを指定。							
SearchFileDirWin2000	FolderWin2000 に下記定数を使用する場合で該当するフォルダが存在しなかった場合に使用されるフォルダを指定。							
SearchFileDirWinXP	FolderWinXP に下記定数を使用する場合で該当するフォルダが存在しなかった場合に使用されるフォルダを指定。							
SearchFileDirWin2003	FolderWin2003 に下記定数を使用する場合で該当するフォルダが存在しなかった場合に使用されるフォルダを指定。							
SearchFileDirWinVista	FolderWinVista に下記定数を使用する場合で該当するフォルダが存在しなかった場合に使用されるフォルダを指定。							
DocumentFile	README ファイル名を指定。ファイル名にフォルダを含めない。 ファイルはインストーラと同一フォルダまたはインストーラが存在するフォルダ内の Files フォルダ以下に格納すること。	文字列型						
LicenseFile	ライセンスファイル名を指定。ファイル名にフォルダを含めない。 ファイルはインストーラと同一フォルダまたはインストーラが存在するフォルダ内の Files フォルダ以下に格納すること。	文字列型						
AlwaysAgree	常に同意した状態にするかを指定。同意確認チェックボックスを表示しない。	数値型						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>インストール時にユーザーが同意するかを選択</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>常に同意状態</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	インストール時にユーザーが同意するかを選択	1	常に同意状態	
値	機能							
0	インストール時にユーザーが同意するかを選択							
1	常に同意状態							
ReadLicenseTillTheLast	ライセンス情報を最後まで読まない、「同意する」チェックボックスが使用できないようにするかを指定。	数値型						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>最後まで読まなくても同意するチェックボックスを使用可能にする</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>最後まで読まない「同意する」チェックボックスを使用できないようにする</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	最後まで読まなくても同意するチェックボックスを使用可能にする	1	最後まで読まない「同意する」チェックボックスを使用できないようにする	
値	機能							
0	最後まで読まなくても同意するチェックボックスを使用可能にする							
1	最後まで読まない「同意する」チェックボックスを使用できないようにする							
MainFileName	メインプログラムファイルをフルパスで指定。	文字列型						
MajorVersion	メジャーバージョンを指定。	数値型						
MinorVersion	マイナーバージョンを指定。	数値型						
ReleaseVersion	リリースバージョンを指定。	数値型						
BuildVersion	ビルドバージョンを指定。	数値型						
OtherVersion	追加バージョンを指定。	数値型						
LogoEnabled	ロゴを表示するかどうかを指定。	数値型						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>表示しない (デフォルト)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>表示する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	表示しない (デフォルト)	1	表示する	
値	機能							
0	表示しない (デフォルト)							
1	表示する							
LogoFileName	ロゴファイル名を指定する。ファイル名にはフォルダを含めない。	文字列型						
LogoNoHeaderMes	ロゴを表示する際にヘッダなどに表示されるメッセージを表示するかを指定。 LogoEnabled にて 0 が指定されている場合にはここでの指定は無効。	数値型						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>表示しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>表示する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	表示しない	1	表示する	
値	機能							
0	表示しない							
1	表示する							

値名	説明/設定値	データ型														
	<table border="1"> <tr> <td>0</td> <td>表示する (デフォルト)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>表示しない</td> </tr> </table>	0	表示する (デフォルト)	1	表示しない											
0	表示する (デフォルト)															
1	表示しない															
LogoTransparent	<p>ロゴの背景色を透明にするかどうかを指定。ロゴファイルは BMP 形式のみ有効 (開発言語の制限)。LogoEnabled にて 0 が指定されている場合にはここでの指定は無効。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>背景色を透明にしない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>背景色を透明にする</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	背景色を透明にしない	1	背景色を透明にする	数値型								
値	機能															
0	背景色を透明にしない															
1	背景色を透明にする															
LogoNoResize	<p>ロゴファイルを表示サイズに合わせて自動的に拡大・縮小して表示するかを指定。LogoEnabled にて 0 が指定されている場合にはここでの指定は無効。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>自動サイズ調整を行う。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>自動サイズ調整を行わない。</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	自動サイズ調整を行う。	1	自動サイズ調整を行わない。	数値型								
値	機能															
0	自動サイズ調整を行う。															
1	自動サイズ調整を行わない。															
LogoNoCenter	<p>ロゴファイルを表示領域の中心に表示するかを指定。LogoEnabled にて 0 が指定されている場合にはここでの指定は無効。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>表示領域の中心に表示する。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>表示領域の中心に表示しない。(デフォルト)</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	表示領域の中心に表示する。	1	表示領域の中心に表示しない。(デフォルト)	数値型								
値	機能															
0	表示領域の中心に表示する。															
1	表示領域の中心に表示しない。(デフォルト)															
LogoPosition	<p>指定されたロゴファイルの表示領域の位置を指定。LogoEnabled にて 0 が指定されている場合にはここでの指定は無効。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>ロゴの表示位置を指定。カスタムの場合で指定されている値が無効な場合は 0 として処理を行う。</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>左 (デフォルト)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>中心</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>カスタム (②および③を指定)</td> </tr> </tbody> </table> <p>② トップ位置 (単位: ピクセル) ③ レフト位置 (単位: ピクセル)</p>	パラメータ	説明	①	ロゴの表示位置を指定。カスタムの場合で指定されている値が無効な場合は 0 として処理を行う。	値	機能	0	左 (デフォルト)	1	中心	2	右	3	カスタム (②および③を指定)	数値型
パラメータ	説明															
①	ロゴの表示位置を指定。カスタムの場合で指定されている値が無効な場合は 0 として処理を行う。															
値	機能															
0	左 (デフォルト)															
1	中心															
2	右															
3	カスタム (②および③を指定)															
LogoSize	<p>指定されたロゴの表示領域を指定。LogoEnabled にて 0 が指定されている場合は LogoSize は無効。指定サイズのどちらかもしくは両方が 0 の場合など不正な値が指定されている場合は指定は無効。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>ロゴの表示領域のサイズを指定するかを指定</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>指定しない (デフォルト) 表示可能な領域の最大サイズ</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定する (②および③を指定)</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 横幅 (単位:ピクセル) ③ 縦幅 (単位:ピクセル)</p>	パラメータ	説明	①	ロゴの表示領域のサイズを指定するかを指定	値	機能	0	指定しない (デフォルト) 表示可能な領域の最大サイズ	1	指定する (②および③を指定)	数値型				
パラメータ	説明															
①	ロゴの表示領域のサイズを指定するかを指定															
値	機能															
0	指定しない (デフォルト) 表示可能な領域の最大サイズ															
1	指定する (②および③を指定)															

1.1.3. [Installer] セクション

インストーラに関する設定を指定。

値名	説明/設定値	データ型						
EnabledFilesSetting	[FilesSetting] セクションの設定を有効にするかを指定。現在は 1 固定 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効	数値型
値	機能							
0	無効							
1	有効							
EnableShortCutSetting	[ShortCutSetting] セクションの設定を有効にするかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効	数値型
値	機能							
0	無効							
1	有効							
EnableRegistrySetting	[RegistrySetting] セクションの設定を有効にするかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効	数値型
値	機能							
0	無効							
1	有効							
EnableDeleteRegistrySetting	[DeleteRegistrySetting] セクションの設定を有効にするかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効	数値型
値	機能							
0	無効							
1	有効							
EnableUnDeleteRegistrySetting	[UnDeleteSetting] セクションの設定を有効にするかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効	数値型
値	機能							
0	無効							
1	有効							
EnableIniFileSetting	[IniFileSetting] セクションの設定を有効にするかどうかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効	数値型
値	機能							
0	無効							
1	有効							
EnableProgramSetting	[ProgramSetting] セクションの設定を有効にするかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効	数値型
値	機能							
0	無効							
1	有効							
EnableDeleteFileSetting	[DeleteFileItems] セクションの設定を有効にするかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効	数値型
値	機能							
0	無効							
1	有効							
EnableUnDeleteFileSetting	[UnDeleteFileSetting] セクションの設定を有効にするかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	数値型		
値	機能							
0	無効							

値名	説明/設定値	データ型										
	1 有効											
EnableUnInstallSetting	[UninstallSetting] セクションの設定を有効にするかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効	数値型				
値	機能											
0	無効											
1	有効											
EnableSilentInstall	インストール時にサイレントインストール機能を有効にするかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効	数値型				
値	機能											
0	無効											
1	有効											
EnableSilentUnInstall	インストール時に既に旧バージョンがインストールされている時、アンインストールする設定になっている場合に簡単インストーラでインストールされたアプリケーションの場合サイレントアンインストール機能を有効にするかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効	数値型				
値	機能											
0	無効											
1	有効											
EnableInstallProcessOrderSetting	[InstallProcessOrderSetting]セクションの設定を有効にするかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効	数値型				
値	機能											
0	無効											
1	有効											
EnableUnInstallProcessOrderSetting	[UnInstallProcessOrderSetting]セクションの設定を有効にするかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効	数値型				
値	機能											
0	無効											
1	有効											
EnableSupportInfo	[SupportInfoSetting] セクションの設定を有効にするかを指定。 OS が Windows XP/2000/Server 2003 の場合のみ有効。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効	数値型				
値	機能											
0	無効											
1	有効											
InstallMethod	旧バージョンがインストールされている場合のインストーラの処理を指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>そのまま処理を継続</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>インストール処理を禁止</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>インストール処理中にアンインストーラを起動(確認メッセージを表示する)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>インストール処理中にアンインストーラを起動(一括アンインストール) CollectUnInstallItems セクション参照のこと</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	そのまま処理を継続	1	インストール処理を禁止	2	インストール処理中にアンインストーラを起動(確認メッセージを表示する)	3	インストール処理中にアンインストーラを起動(一括アンインストール) CollectUnInstallItems セクション参照のこと	数値型
値	機能											
0	そのまま処理を継続											
1	インストール処理を禁止											
2	インストール処理中にアンインストーラを起動(確認メッセージを表示する)											
3	インストール処理中にアンインストーラを起動(一括アンインストール) CollectUnInstallItems セクション参照のこと											
FileCopyOptions	インストール時のファイルコピー時のオプションを指定。ここでの指定は全ファイルコピー処理に対して有効となる。 Ver.2.37a3 以降では未使用	数値型										

値名	説明/設定値		データ型
	ビット	内容	
	0	ファイルをコピーする際に日時情報を無視し、バージョン情報のみを参照。 Ver.2.37a3 以降では[Files]セクションの「オプション」「ビット 8:ファイルコピー時、日時情報を無視する。」を使用すること	
Options	インストーラのオプションを指定。		数値型
	ビット	概要	
	0	検索処理を中止可能にする。	
	1	フォルダを取得できなかった場合にインストール処理を中止する。	
	2	インストール先のフォルダを変更できないようにする。	
	3	%SearchFileDir% 定数(%SearchFileDirEx% 定数)が使用されている場合において全ドライブを検索するようにする。このオプションが無効の場合はシステムがインストールされているドライブのみを検索。	
	4	[Software] セクションで指定されているメインプログラムのバージョンをインストール時にチェックする。Ver.2.36a2 よりバージョンが同じまたは最新のものがインストールされている場合はインストール処理は中止される。(オプションにより変更可能)	
	5	インストーラ内部で用意されている OCX の登録機能を使用せずにシステムに存在する REGSRV32.EXE を使用する。このオプションを指定した場合にシステムに REGSRV32.EXE が存在しない場合は内蔵機能を使用。	
	6	インストール処理終了後、無条件に再起動確認メッセージを表示する。	
	7	インストール時に既に指定フォルダが存在する場合でも確認メッセージを表示しない。	
	8	インストール時に指定フォルダが存在しない場合、確認メッセージを表示せず自動的に作成する。	
	9	4ビット目が ON の時に、確認メッセージにてインストールの可否をユーザーが選択できるようにする。	
	10	アンインストール処理終了後、無条件に再起動確認メッセージを表示する。	
UnInstallerAutoSetting	インストーラがアンインストーラに関する設定をすべて自動で行うかを指定。省略時はアンインストーラに関する設定をすべて自動で行う。		数値型
	値	機能	
	0	インストーラは設定に従いアンインストーラの設定を行う	
	1	インストーラがアンインストーラに関する設定を自動的に行う	
UnInstallerStoreFolder	アンインストーラの保存先を指定。 省略時%WindowsDirectory%		文字列型
UnInstallerStoreSubFolder	アンインストーラの保存先のサブフォルダを指定。		文字列型
UnInstallerFileName	アンインストーラのファイル名を指定。対象のシステムに重複するファイル名があった場合は別名を自動的に設定する。 省略時 eiunin21.exe		文字列型
UnInstallerOptions	アンインストーラのオプションを指定。		数値型
	ビット	概要	
	0	アンインストール時、アンインストーラを削除しない	

値名	説明/設定値	データ型		
	<table border="1"><tr><td data-bbox="512 152 596 241">1</td><td data-bbox="596 152 1299 241">既にアンインストーラが存在する場合でも、別名でアンインストーラをコピーしない。</td></tr></table>	1	既にアンインストーラが存在する場合でも、別名でアンインストーラをコピーしない。	
1	既にアンインストーラが存在する場合でも、別名でアンインストーラをコピーしない。			

1.1.4. [InstallLimit] セクション

インストール時の制限事項を設定。

値名	説明/設定値	データ型																																																								
Date	日時による制限を行う場合はインストール可能な日時を指定。 省略または無効な場合インストール処理は制限しない。	日付型																																																								
PC	インストール時の PC 条件を指定。省略または無効な場合インストール処理は制限しない。パラメータ間は , 記号で区切る。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>処理内容を設定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>レジストリの値が設定値の場合</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定ファイルが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>入力文字列が一致する場合。 このオプションを指定すると入力画面が表示される。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レジストリの値が設定値の場合</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>INI ファイルの値が設定値の場合</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </tbody> </table> <p>パラメータ②～パラメータ⑧については下記参照</p> <p>[0:レジストリの値が設定値の場合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>②</td> <td>ルートキー</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>サブキー</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>値名 (フォルダ定数および環境変数が使用可能)</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>値 (フォルダ定数および環境変数が使用可能)</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>未使用</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>未使用</td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>未使用</td> </tr> </tbody> </table> <p>[1:指定ファイルが存在する場合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>②</td> <td>フォルダ定数</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>サブフォルダ</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>ファイル名</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>未使用</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>未使用</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>未使用</td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>未使用</td> </tr> </tbody> </table> <p>[2:入力文字列が一致する場合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>②</td> <td>未使用</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>未使用</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>値</td> </tr> </tbody> </table>	パラメータ	説明	①	処理内容を設定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>レジストリの値が設定値の場合</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定ファイルが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>入力文字列が一致する場合。 このオプションを指定すると入力画面が表示される。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レジストリの値が設定値の場合</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>INI ファイルの値が設定値の場合</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	レジストリの値が設定値の場合	1	指定ファイルが存在する場合	2	入力文字列が一致する場合。 このオプションを指定すると入力画面が表示される。	3	レジストリの値が設定値の場合	4	INI ファイルの値が設定値の場合	パラメータ	内容	②	ルートキー	③	サブキー	④	値名 (フォルダ定数および環境変数が使用可能)	⑤	値 (フォルダ定数および環境変数が使用可能)	⑥	未使用	⑦	未使用	⑧	未使用	パラメータ	内容	②	フォルダ定数	③	サブフォルダ	④	ファイル名	⑤	未使用	⑥	未使用	⑦	未使用	⑧	未使用	パラメータ	内容	②	未使用	③	未使用	④	値	文字列型
パラメータ	説明																																																									
①	処理内容を設定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>レジストリの値が設定値の場合</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定ファイルが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>入力文字列が一致する場合。 このオプションを指定すると入力画面が表示される。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レジストリの値が設定値の場合</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>INI ファイルの値が設定値の場合</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	レジストリの値が設定値の場合	1	指定ファイルが存在する場合	2	入力文字列が一致する場合。 このオプションを指定すると入力画面が表示される。	3	レジストリの値が設定値の場合	4	INI ファイルの値が設定値の場合																																													
値	機能																																																									
0	レジストリの値が設定値の場合																																																									
1	指定ファイルが存在する場合																																																									
2	入力文字列が一致する場合。 このオプションを指定すると入力画面が表示される。																																																									
3	レジストリの値が設定値の場合																																																									
4	INI ファイルの値が設定値の場合																																																									
パラメータ	内容																																																									
②	ルートキー																																																									
③	サブキー																																																									
④	値名 (フォルダ定数および環境変数が使用可能)																																																									
⑤	値 (フォルダ定数および環境変数が使用可能)																																																									
⑥	未使用																																																									
⑦	未使用																																																									
⑧	未使用																																																									
パラメータ	内容																																																									
②	フォルダ定数																																																									
③	サブフォルダ																																																									
④	ファイル名																																																									
⑤	未使用																																																									
⑥	未使用																																																									
⑦	未使用																																																									
⑧	未使用																																																									
パラメータ	内容																																																									
②	未使用																																																									
③	未使用																																																									
④	値																																																									

	(ここで指定した値を入力した場合にインストールを許可する)										
⑤	未使用										
⑥	未使用										
⑦	未使用										
⑧	未使用										
[3:レジストリの値が設定値の場合]											
パラメータ	内容										
②	ルートキー										
③	サブキー										
④	値名 (フォルダ定数および環境変数が使用可能)										
⑤	値 (フォルダ定数および環境変数が使用可能)										
⑥	未使用										
⑦	未使用										
⑧	条件を指定 <table border="1" data-bbox="635 855 1279 1064"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>値が設定値以上の場合</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>値が設定値より大きい場合</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>値が設定値未満の場合</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>値が設定値以上の場合</td> </tr> </tbody> </table> <p>DWORD 値もしくは文字列型の場合に有効。ただし、文字列型の場合には 10 進数値として変換できない場合常に条件非成立となる。</p>	値	条件	0	値が設定値以上の場合	1	値が設定値より大きい場合	2	値が設定値未満の場合	3	値が設定値以上の場合
値	条件										
0	値が設定値以上の場合										
1	値が設定値より大きい場合										
2	値が設定値未満の場合										
3	値が設定値以上の場合										
[4: INI ファイルの値が設定値の場合]											
パラメータ	内容										
②	フォルダ定数										
③	サブフォルダ										
④	ファイル名										
⑤	セクション名 (フォルダ定数および環境変数が使用可能)										
⑥	値名 (フォルダ定数および環境変数が使用可能)										
⑦	値 (フォルダ定数および環境変数が使用可能)										
⑧	条件を指定 <table border="1" data-bbox="635 1758 1279 1966"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>値が設定値以上の場合</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>値が設定値より大きい場合</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>値が設定値未満の場合</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>値が設定値以上の場合</td> </tr> </tbody> </table> <p>10 進数値として変換できない場合常に条件非成立となる。</p>	値	条件	0	値が設定値以上の場合	1	値が設定値より大きい場合	2	値が設定値未満の場合	3	値が設定値以上の場合
値	条件										
0	値が設定値以上の場合										
1	値が設定値より大きい場合										
2	値が設定値未満の場合										
3	値が設定値以上の場合										

EndFileRenOperation	<p>システムの状態を判断してインストール可能にするかを指定。システムの状態は下記のレジストリの内容より判断する。</p> <p>HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Control\Session Manager\PendingFileRenameOperations</p> <table border="1" data-bbox="467 356 1299 483"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>システムの状態に関係なくインストール可能。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>以前の処理が完了していない場合はインストール不可。</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	システムの状態に関係なくインストール可能。	1	以前の処理が完了していない場合はインストール不可。	数値型		
値	機能									
0	システムの状態に関係なくインストール可能。									
1	以前の処理が完了していない場合はインストール不可。									
User	<p>管理者権限のあるユーザーのみがインストールできるようにするかを指定。</p> <table border="1" data-bbox="467 562 1299 891"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>インストール時にユーザーの権限をチェックしない。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>管理者権限のあるユーザーのみインストール可能にする。このオプションを選択した場合でも Win 9x/Me の場合はインストール時にユーザーの権限をチェックしない。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>管理者権限もしくは制限付きユーザーのみインストール可能にする。このオプションを選択した場合でも Win9x/Me の場合はインストール時にユーザーの権限をチェックしない。</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	インストール時にユーザーの権限をチェックしない。	1	管理者権限のあるユーザーのみインストール可能にする。このオプションを選択した場合でも Win 9x/Me の場合はインストール時にユーザーの権限をチェックしない。	2	管理者権限もしくは制限付きユーザーのみインストール可能にする。このオプションを選択した場合でも Win9x/Me の場合はインストール時にユーザーの権限をチェックしない。	数値型
値	機能									
0	インストール時にユーザーの権限をチェックしない。									
1	管理者権限のあるユーザーのみインストール可能にする。このオプションを選択した場合でも Win 9x/Me の場合はインストール時にユーザーの権限をチェックしない。									
2	管理者権限もしくは制限付きユーザーのみインストール可能にする。このオプションを選択した場合でも Win9x/Me の場合はインストール時にユーザーの権限をチェックしない。									
FileUseCheck	<p>インストール前にファイルが使用中かをチェックする。</p> <table border="1" data-bbox="467 969 1299 1135"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>ファイルの使用状況をチェックしない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>ファイルの使用状況をチェックする。ファイルが一部使用中の場合メッセージを表示してインストール処理を中止。</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	ファイルの使用状況をチェックしない	1	ファイルの使用状況をチェックする。ファイルが一部使用中の場合メッセージを表示してインストール処理を中止。	数値型		
値	機能									
0	ファイルの使用状況をチェックしない									
1	ファイルの使用状況をチェックする。ファイルが一部使用中の場合メッセージを表示してインストール処理を中止。									

1.1.5. [ScreenSetting] セクション

インストール時の画面を設定。

値名	説明/設定値	データ型						
Panel01	ようこそ画面を表示するかどうかを指定。現在は常に1固定 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>表示しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>表示する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	表示しない	1	表示する	数値型
値	機能							
0	表示しない							
1	表示する							
Panel02	ドキュメント画面を表示するかを指定。ファイルが指定されていない場合この設定は無効。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>表示しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>表示する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	表示しない	1	表示する	数値型
値	機能							
0	表示しない							
1	表示する							
Panel03	ソフトウェアライセンス契約画面を表示するかを指定。ファイルが指定されていない場合この設定は無効。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>表示しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>表示する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	表示しない	1	表示する	数値型
値	機能							
0	表示しない							
1	表示する							
Panel04	インストール先のフォルダを指定する画面を表示するかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>表示しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>表示する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	表示しない	1	表示する	数値型
値	機能							
0	表示しない							
1	表示する							
Panel05	グループ名を選択する画面を表示するかを指定。スタートメニューに登録する設定になっていない場合はこの設定は無効。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>表示しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>表示する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	表示しない	1	表示する	数値型
値	機能							
0	表示しない							
1	表示する							
Panel06	インストール内容確認画面を表示するかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>表示しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>表示する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	表示しない	1	表示する	数値型
値	機能							
0	表示しない							
1	表示する							
Panel07	インストール完了の画面を表示するかを指定。再起動が必要な場合などはここでの設定に関わらず常に表示。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>表示しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>表示する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	表示しない	1	表示する	数値型
値	機能							
0	表示しない							
1	表示する							
Panel08	進捗状況インジゲータを表示するかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>表示しない</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	表示しない	数値型		
値	機能							
0	表示しない							

値名	説明/設定値	データ型						
	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>表示する</td> </tr> </table>	1	表示する					
1	表示する							
Panel09	<p>著作権警告表示を行うかを指定。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>表示しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>表示する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	表示しない	1	表示する	数値型
値	機能							
0	表示しない							
1	表示する							
Panel10	<p>著作権情報を表示するかを指定。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>表示しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>表示する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	表示しない	1	表示する	数値型
値	機能							
0	表示しない							
1	表示する							

1.1.6. [FilesSetting]セクション

インストールするファイルやフォルダに関する設定を行う。

インストールするファイルやフォルダに関する詳細な設定は UseSection で指定したセクション内に記載する。

値名	説明/設定値	データ型						
UseSection	ファイル/フォルダ項目の設定が記録されているセクションを指定。	文字列型						
ExcludeCommonComponent	共有ファイルが含まれているかを指定。この項目に関してはインストーラを作成する際に「UseSection」で示す、セクションの内容から判断し値をセットすること。	数値型						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>共有コンポーネントおよび個別コンポーネントで構成される</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>個別コンポーネントのみで構成される</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	共有コンポーネントおよび個別コンポーネントで構成される	1	個別コンポーネントのみで構成される	
値	機能							
0	共有コンポーネントおよび個別コンポーネントで構成される							
1	個別コンポーネントのみで構成される							

1.1.7. [ShortCutSetting] セクション

インストール時に作成するショートカットファイルに関する設定を行う。

作成するショートカットファイルに関する詳細な設定は UseSection で指定したセクション内に記載する。

値名	説明/設定値	データ型										
GroupName	スタートメニューにショートカットを登録する際のグループ名を指定。 サブグループを作成する場合は¥マークにより区切る。	文字列型										
VisibleSelectUser	インストール時に「インストール時のユーザーのみ」チェックボックスを表示するかどうかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>表示しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>表示する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	表示しない	1	表示する	数値型				
値	機能											
0	表示しない											
1	表示する											
CheckSelectUser	「すべてのユーザーを対象にする」チェックボックスをチェック状態にするかどうかを指定。インストールしているユーザーが管理者権限を持たない場合は無効。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>チェックしない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>チェックする</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	チェックしない	1	チェックする	数値型				
値	機能											
0	チェックしない											
1	チェックする											
EnableSelectUser	「インストール時のユーザーのみ」チェックボックスを変更可能にするかどうかを指定。インストールしているユーザーが管理者権限を持たない場合は無効。常にインストール時のユーザーのみになる。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>変更不可能にする</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>変更可能にする</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	変更不可能にする	1	変更可能にする	数値型				
値	機能											
0	変更不可能にする											
1	変更可能にする											
ShowCheckBox	ショートカット項目の設定内容に応じて、インストール時にチェックボックスを表示するかどうかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>チェックボックスを表示しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>自動判別</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	チェックボックスを表示しない	1	自動判別	数値型				
値	機能											
0	チェックボックスを表示しない											
1	自動判別											
DefaultCheckBox	初期状態でチェックを行うチェックボックスを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>デスクトップ</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>スタートアップ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>送る</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>クイックランチ(WinXP: クイック起動)</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	デスクトップ	1	スタートアップ	2	送る	3	クイックランチ(WinXP: クイック起動)	数値型
ビット	内容											
0	デスクトップ											
1	スタートアップ											
2	送る											
3	クイックランチ(WinXP: クイック起動)											
UseSection	ショートカット項目の設定が記録されているセクションを指定。	文字列型										

1.1.8. [RegistrySetting] セクション

インストール時に処理を行うレジストリに関する設定を行う。

処理を行うレジストリに関する詳細な設定は UseSection で指定したセクション内に記載する。

値名	説明/設定値	データ型
UseSection	レジストリ項目の設定が記録されているセクションを指定。	文字列型

1.1.9. [IniFileSetting] セクション

インストール時に処理を行う INI ファイルに関する設定を行う。

処理を行う際の INI ファイルに関する設定は UseSection で指定したセクション内に記載する。

値名	説明/設定値	データ型
UseSection	INI ファイル項目の設定が記録されているセクションを指定。	文字列型

1.1.10. [ProgramSetting] セクション

インストール・アンインストール完了時に実行するプログラムに関する設定を行う。

実行するプログラムに関する詳細な設定は UseSection で指定したセクション内に記載する。

値名	説明/設定値	データ型						
CheckBoxCaption	チェックボックスの表示文字列を指定。EnableGroupCheckBox が無効な場合ここでの指定は無視される。	文字列型						
DefaultCheckBoxState	チェックボックスの初期状態を指定 <table border="1" data-bbox="464 479 1297 607"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効	数値型
値	機能							
0	無効							
1	有効							
EnableGroupCheckBox	すべての実行する項目を一つの項目として扱うかを指定。この機能が無効な場合個別に実行する項目を選択するためのチェックボックスを表示。 <table border="1" data-bbox="464 725 1297 853"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効	数値型
値	機能							
0	無効							
1	有効							
UseSection	プログラム項目の設定が記録されているセクションを指定。	文字列型						

1.1.11. [SupportInfoSetting] セクション

インストール時にコントロールパネルの「プログラムの追加と削除」に登録されるサポート情報に関する設定を行う。
サポート情報に関する詳細な設定は UseSection で指定したセクション内に記載する。

値名	説明/設定値	データ型
UseSection	サポート情報項目の設定が記録されているセクションを指定。	文字列型

1.1.12. [DeleteFileSetting]セクション

値名	説明/設定値	データ型
UseSection	アンインストール時に削除するファイルの設定が記録されているセクションを指定。	文字列型

1.1.13. [DeleteRegistrySetting] セクション

値名	説明/設定値	データ型
UseSection	削除対象のレジストリ項目の設定が記録されているセクションを指定。	文字列型

1.1.14. [UnDeleteFileSetting] セクション

値名	説明/設定値	データ型
UseSection	削除対象外ファイル項目の設定が記録されているセクションを指定。	文字列型

1.1.15. [UnDeleteRegistrySetting] セクション

値名	説明/設定値	データ型
UseSection	削除対象外のレジストリ項目の設定が記録されているセクションを指定。	文字列型

1.1.16. [UninstallSetting] セクション

値名	説明/設定値	データ型								
PersonalSettingDeleteConfirm	レジストリおよび INI ファイルを削除する際に削除確認メッセージを表示するかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>表示しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>表示する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	表示しない	1	表示する	数値型		
値	機能									
0	表示しない									
1	表示する									
SystemFileDelete	システムフォルダ内のファイルを削除するかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>システムフォルダ内のファイルは削除しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>システムフォルダ内のファイルを削除する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	システムフォルダ内のファイルは削除しない	1	システムフォルダ内のファイルを削除する	数値型		
値	機能									
0	システムフォルダ内のファイルは削除しない									
1	システムフォルダ内のファイルを削除する									
SystemFileDeleteMessage	SystemFileDelete を有効に設定した場合、削除時に確認のメッセージを表示するかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>表示しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>表示する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	表示しない	1	表示する	数値型		
値	機能									
0	表示しない									
1	表示する									
InfoFileMethod	インストール時にアンインストール情報ファイルが既に存在している場合の処理を指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>既存の情報ファイルを上書き</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>連番でファイルを作成する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指定された情報ファイル名で作成する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	既存の情報ファイルを上書き	1	連番でファイルを作成する	2	指定された情報ファイル名で作成する	数値型
値	機能									
0	既存の情報ファイルを上書き									
1	連番でファイルを作成する									
2	指定された情報ファイル名で作成する									
InfoFileName	アンインストール情報ファイル名を指定。パスを含める場合はフォルダ定数を含んだフルパスで指定。InfoFileMethod にて 2 以外が指定されている場合は無視。	文字列型								

1.1.17. [InstallProcessOrderSetting]セクション

値名	説明/設定値	データ型
UseSection	インストール処理順序が指定されているセクション名を指定。	文字列型

1.1.18. [UnInstallProcessOrderSetting]セクション

値名	説明/設定値	データ型
UseSection	アンインストール処理ジョブ所が指定されているセクション名を指定。	文字列型

1.1.19. [SupportInfo] セクション

コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」内のサポート情報に表示する情報を設定。

値名	説明/設定値	データ型
Publisher	著作権者を指定。	文字列型
Corporation	著作権企業を指定。	文字列型
HelpLink	サポートページへのリンクを指定。	文字列型
HelpTelephon	サポート先の電話番号を指定。	文字列型
URLInfoAbout	製品についてのリンク先を指定。	文字列型
URLUpdateInfo	製品の更新情報についてのリンク先を指定。	文字列型

1.1.20. [OSSetting] セクション

値名	説明/設定値	データ型																				
CheckOSVersion	<p>インストール時に対象の OS かどうかをチェックするかを指定。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>インストール時に OS の種類およびバージョンをチェックしない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>インストール時に OS の種類およびバージョンをチェックする</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	インストール時に OS の種類およびバージョンをチェックしない	1	インストール時に OS の種類およびバージョンをチェックする	数値型														
値	機能																					
0	インストール時に OS の種類およびバージョンをチェックしない																					
1	インストール時に OS の種類およびバージョンをチェックする																					
OSVersion	<p>インストールの対象となる OS を指定。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>OS 名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>Windows 95</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Windows 98</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Windows Me</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Windows NT4.0 Workstation/Server</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Windows 2000 Professional/Server</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Windows XP Home/Professional</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Windows Server 2003</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Windows Vista</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Windows Server 2008</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	OS 名	0	Windows 95	1	Windows 98	2	Windows Me	3	Windows NT4.0 Workstation/Server	4	Windows 2000 Professional/Server	5	Windows XP Home/Professional	6	Windows Server 2003	7	Windows Vista	8	Windows Server 2008	数値型
ビット	OS 名																					
0	Windows 95																					
1	Windows 98																					
2	Windows Me																					
3	Windows NT4.0 Workstation/Server																					
4	Windows 2000 Professional/Server																					
5	Windows XP Home/Professional																					
6	Windows Server 2003																					
7	Windows Vista																					
8	Windows Server 2008																					
SPVersion ※1	<p>インストール対象となる OS のサービスパックを指定。各パラメータで 0 もしくは省略した場合設定は無効。パラメータ間は , 記号で区切る。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>Windows NT 4.0 Workstation/Server</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>Windows 2000 Professional/Server</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>Windows XP Home/Professional</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>Windows Server 2003</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>Windows Vista</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>Windows Server 2008</td> </tr> </tbody> </table>	パラメータ	内容	①	Windows NT 4.0 Workstation/Server	②	Windows 2000 Professional/Server	③	Windows XP Home/Professional	④	Windows Server 2003	⑤	Windows Vista	⑥	Windows Server 2008	数値型						
パラメータ	内容																					
①	Windows NT 4.0 Workstation/Server																					
②	Windows 2000 Professional/Server																					
③	Windows XP Home/Professional																					
④	Windows Server 2003																					
⑤	Windows Vista																					
⑥	Windows Server 2008																					

※1: サービスパックについて

Windows NT 4.0 : Service Pack 1～Service Pack 6(a 含む)

Windows 2000 : Service Pack 1～Service Pack 4

Windows XP : Service Pack 1～Service Pack3 (Service Pack 1a および Service Pack 2b 含む)

Windows Server 2003 : Service Pack 1～Service Pack 2

Windows Vista : Service Pack 1

Windows Server 2008: 未発表

1.2. 詳細項目

ここではインストールやショートカットの作成時に必要となる設定項目についての詳細を記す。

なお、セクション名は[xxxSetting]セクションの UseSection 値により異なる。

1.3. 各項目の最大数

セクション名	最大項目数
Files	32767(Ver2.30 以降)、20000 (Ver.2.05b5 以降)、5000
ShortCutItems	5000
RegistryItems	5000
IniFileItems	5000
DeleteRegistryItems	5000
ProgramItems	5000
UnDeleteFileItems	5000
DeleteFileItems	5000
InstallProcessOrderItems	10
UnInstallProcessOrderItems	10

1.4. 形式

すべてのセクションは下記の形式をとる。

各設定は “;”記号で区切る。項目数についてはセクションにより異なる。

各設定内でさらに項目を区切る場合は“;”記号を使用する。

項番 = ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫

15. インストール

ここではインストール時に使用されるセクション項目についての詳細を記載。

1.5.1. [Files] セクション

①	設定を有効にするか無効にするかを指定。																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効 (デフォルト)</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効 (デフォルト)																						
値	機能																												
0	無効																												
1	有効 (デフォルト)																												
②	処理内容を指定。																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>ファイルをコピーまたは上書きする。(デフォルト)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>フォルダを作成する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指定されたファイルを削除する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>指定されたフォルダを削除する。フォルダ内が空でない場合削除しない。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>指定されたフォルダを削除する。フォルダ内にファイルまたはサブフォルダが存在する場合はメッセージを表示。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>インクルードファイルとして処理する。インクルードファイル内では使用不可。</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	ファイルをコピーまたは上書きする。(デフォルト)	1	フォルダを作成する。	2	指定されたファイルを削除する。	3	指定されたフォルダを削除する。フォルダ内が空でない場合削除しない。	4	指定されたフォルダを削除する。フォルダ内にファイルまたはサブフォルダが存在する場合はメッセージを表示。	5	インクルードファイルとして処理する。 インクルードファイル内では使用不可。														
値	機能																												
0	ファイルをコピーまたは上書きする。(デフォルト)																												
1	フォルダを作成する。																												
2	指定されたファイルを削除する。																												
3	指定されたフォルダを削除する。フォルダ内が空でない場合削除しない。																												
4	指定されたフォルダを削除する。フォルダ内にファイルまたはサブフォルダが存在する場合はメッセージを表示。																												
5	インクルードファイルとして処理する。 インクルードファイル内では使用不可。																												
③	フォルダ定数を指定。フォルダ定数についてはフォルダ定数仕様書参照。 インクルードファイルの場合は外部参照先のセクション名を指定する。																												
④	サブフォルダを指定。 インクルードファイルの場合は参照しない。																												
⑤	実際のファイルをフルパスで指定。 コンポーネント選択機能を使用する場合は、インクルードファイルをフルパスで指定する。																												
⑥	コメントを指定。ここで指定したコメントがインストーラのコンポーネントリストの名称として使用される																												
⑦	インストール時の実際のファイル名を指定。パスを含めない。インクルードファイルの場合はコンポーネントの詳細な説明を指定する。																												
⑧	<p>オプションを指定。</p> <p>(インクルードファイルの場合)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>コンポーネント選択画面にて、初期状態で項目を選択状態にする</td> </tr> </tbody> </table> <p>(インクルードファイル以外)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>上書き確認を行う。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>レジストリに登録する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>共有ファイルとして登録する。ビット1が有効の場合はこの設定は無条件に有効になる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ファイルが存在する場合はファイルのコピー・上書き処理を一切行わない。このオプションを指定した場合このオプション以外の指定は一切無効となる。アンインストール情報の登録のみ行う。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>既存のファイルに現在日時を付加した上で保存し、新たに別のファイルをコピーする。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ファイルをコピーしない。この場合でもインストールファイルの構成ファイルとしてはインストーラ作成時に含む。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アンインストール時確認メッセージを表示する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>既存のファイルをバックアップし、アンインストール時に復元する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ファイルコピー時、日時情報を無視する。Ver2.37a3以降より有効。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ファイルコピー時、バージョン情報を無視する。Ver2.37a3以降より有効。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>指定されたフォルダ(サブフォルダ含む)を削除する際に確認メッセージを表示しない。</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	コンポーネント選択画面にて、初期状態で項目を選択状態にする	ビット	内容	0	上書き確認を行う。	1	レジストリに登録する。	2	共有ファイルとして登録する。ビット1が有効の場合はこの設定は無条件に有効になる。	3	ファイルが存在する場合はファイルのコピー・上書き処理を一切行わない。このオプションを指定した場合このオプション以外の指定は一切無効となる。 アンインストール情報の登録のみ行う。	4	既存のファイルに現在日時を付加した上で保存し、新たに別のファイルをコピーする。	5	ファイルをコピーしない。この場合でもインストールファイルの構成ファイルとしてはインストーラ作成時に含む。	6	アンインストール時確認メッセージを表示する。	7	既存のファイルをバックアップし、アンインストール時に復元する。	8	ファイルコピー時、日時情報を無視する。Ver2.37a3以降より有効。	9	ファイルコピー時、バージョン情報を無視する。Ver2.37a3以降より有効。	10	指定されたフォルダ(サブフォルダ含む)を削除する際に確認メッセージを表示しない。
ビット	内容																												
0	コンポーネント選択画面にて、初期状態で項目を選択状態にする																												
ビット	内容																												
0	上書き確認を行う。																												
1	レジストリに登録する。																												
2	共有ファイルとして登録する。ビット1が有効の場合はこの設定は無条件に有効になる。																												
3	ファイルが存在する場合はファイルのコピー・上書き処理を一切行わない。このオプションを指定した場合このオプション以外の指定は一切無効となる。 アンインストール情報の登録のみ行う。																												
4	既存のファイルに現在日時を付加した上で保存し、新たに別のファイルをコピーする。																												
5	ファイルをコピーしない。この場合でもインストールファイルの構成ファイルとしてはインストーラ作成時に含む。																												
6	アンインストール時確認メッセージを表示する。																												
7	既存のファイルをバックアップし、アンインストール時に復元する。																												
8	ファイルコピー時、日時情報を無視する。Ver2.37a3以降より有効。																												
9	ファイルコピー時、バージョン情報を無視する。Ver2.37a3以降より有効。																												
10	指定されたフォルダ(サブフォルダ含む)を削除する際に確認メッセージを表示しない。																												
⑨	インストール時のファイル/フォルダの属性を指定。インクルードファイルの場合は参照しない。																												

ビット	内容
0	アーカイブ属性
1	読み取り専用属性
2	隠し属性
3	システム属性

⑩ インストール対象となる OS を指定。[OSSetting]セクションの OSVersion 値を参照

⑪ インストール対象となる OS のサービスパックを指定。[OSSetting]セクションの SPVersion 値を参照

⑫ 処理の実行条件を指定。項目間は、記号で区切る。インクルードファイルの場合は参照しない。

パラメータ	説明																		
①	<p>インストール時に設定を有効にするか、アンインストール時に設定を有効にするかを指定。インストール時の場合はコピーまたは作成するかどうかをアンインストール時の場合は削除するかどうかの指定になる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>条件を指定しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>インストール時に指定された条件を判断する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アンインストール時に指定された条件を判断する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>インストール・アンインストール時に指定された条件を判断する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	条件を指定しない	1	インストール時に指定された条件を判断する	2	アンインストール時に指定された条件を判断する	3	インストール・アンインストール時に指定された条件を判断する								
値	機能																		
0	条件を指定しない																		
1	インストール時に指定された条件を判断する																		
2	アンインストール時に指定された条件を判断する																		
3	インストール・アンインストール時に指定された条件を判断する																		
②	<p>処理内容を設定。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>レジストリに該当キーが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>レジストリに該当値が存在する場合</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レジストリの該当の値が設定値の場合</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>指定ファイルが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>指定フォルダが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>INI ファイルに該当セクションが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>INI ファイルに該当値が存在する場合</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>INI ファイルの該当の値が設定値の場合</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	レジストリに該当キーが存在する場合	1	レジストリに該当値が存在する場合	2	レジストリの該当の値が設定値の場合	3	指定ファイルが存在する場合	4	指定フォルダが存在する場合	5	INI ファイルに該当セクションが存在する場合	6	INI ファイルに該当値が存在する場合	7	INI ファイルの該当の値が設定値の場合
値	機能																		
0	レジストリに該当キーが存在する場合																		
1	レジストリに該当値が存在する場合																		
2	レジストリの該当の値が設定値の場合																		
3	指定ファイルが存在する場合																		
4	指定フォルダが存在する場合																		
5	INI ファイルに該当セクションが存在する場合																		
6	INI ファイルに該当値が存在する場合																		
7	INI ファイルの該当の値が設定値の場合																		

パラメータ③から⑨については下記参照

[0:レジストリに該当キーが存在する場合]

パラメータ	内容
③	ルートキーを指定。
④	サブキーを指定
⑤	未使用
⑥	未使用
⑦	予約(他とのセクションとの整合性を保つため使用しないこと)
⑧	未使用
⑨	未使用

[1:レジストリに該当値が存在する場合]

パラメータ	内容
③	ルートキーを指定。
④	サブキーを指定
⑤	値名を指定。

	(フォルダ定数および環境変数使用可能)
⑥	未使用
⑦	予約(他とのセクションとの整合性を保つため使用しないこと)
⑧	未使用
⑨	未使用

[2:レジストリの該当の値が設定値と一致する場合]

パラメータ	内容
③	ルートキーを指定。
④	サブキーを指定
⑤	値名を指定。 (フォルダ定数および環境変数使用可能)
⑥	値を指定。 (フォルダ定数および環境変数使用可能)
⑦	予約(他とのセクションとの整合性を保つため使用しないこと)
⑧	未使用
⑨	未使用

[3:指定ファイルが存在する場合]

パラメータ	内容
③	フォルダ定数を指定。
④	サブフォルダを指定。
⑤	ファイル名を指定。
⑥	未使用
⑦	予約(他とのセクションとの整合性を保つため使用しないこと)
⑧	未使用
⑨	未使用

[4:指定フォルダが存在する場合]

パラメータ	内容
③	フォルダ定数を指定。
④	サブフォルダを指定。
⑤	未使用
⑥	未使用
⑦	予約(他とのセクションとの整合性を保つため使用しないこと)
⑧	未使用
⑨	未使用

[5:INI ファイルに該当セクションが存在する場合]

パラメータ	内容
③	フォルダ定数を指定。
④	サブフォルダおよびファイル名を指定。
⑤	未使用
⑥	未使用
⑦	予約(他とのセクションとの整合性を保つため使用しないこと)
⑧	セクション名を指定。

[6:INI ファイルに該当値が存在する場合]

パラメータ	内容
③	フォルダ定数を指定。
④	サブフォルダおよびファイル名を指定。
⑤	値名を指定
⑥	未使用
⑦	予約(他とのセクションとの整合性を保つため使用しないこと)
⑧	セクション名を指定。

[7:INI ファイルの該当の値が設定値と一致する場合]

パラメータ	内容
③	フォルダ定数を指定。
④	サブフォルダおよびファイル名を指定。
⑤	値名を指定
⑥	値を指定
⑦	予約(他とのセクションとの整合性を保つため使用しないこと)
⑧	セクション名を指定。

※インクルードファイル内の内容については[Files]セクションと同様。

※インクルードファイルの場合、エディタよりインストーラを生成する際に、Files セクションとは別にインクルードセクションを生成する。セクション名については他の項目と重複しないようにする。重複しない場合は特にセクション名についての命名規則はない。展開後は、③に対して参照先のセクション名として生成したセクション名を書き込む。

1.5.2. [ShortCutItems] セクション

①	項目名(ショートカット名)を指定。¥が含まれる場合サブグループを作成し登録。														
②	<p>関連付けするファイルをフォルダ定数を含んだフルパスもしくはファイル名で指定。ファイル名のみの場合には%InstallDir%直下のファイルとして処理する。⑩にてビット0が指定されている場合はURLを指定。</p> <p>フォルダ定数を含まないフルパスも指定可能とする。</p>														
③	引数を指定。														
④	作業ディレクトリを指定。省略時は指定ファイルの存在するフォルダを作業ディレクトリとして指定。														
⑤	フォルダ定数を含んだフルパスもしくはファイル名で指定。ファイル名のみの場合には%InstallDir%直下のファイルとして処理する。														
⑥	アイコンのインデックスを指定。アイコンファイルなどを指定する場合は0を指定。														
⑦	コメントを指定。														
⑧	ウインドウサイズを指定。 <table border="1" data-bbox="231 683 1428 851"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>標準 (デフォルト)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>最小化</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>最大化</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	標準 (デフォルト)	1	最小化	2	最大化						
値	機能														
0	標準 (デフォルト)														
1	最小化														
2	最大化														
⑨	<p>ショートカットの作成先を指定。複数指定可能。</p> <table border="1" data-bbox="231 929 1428 1220"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>作成先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>デスクトップ</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>プログラム (デフォルト)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>スタートメニュー</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>スタートアップ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>送る</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>クイックランチ</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	作成先	0	デスクトップ	1	プログラム (デフォルト)	2	スタートメニュー	3	スタートアップ	4	送る	5	クイックランチ
ビット	作成先														
0	デスクトップ														
1	プログラム (デフォルト)														
2	スタートメニュー														
3	スタートアップ														
4	送る														
5	クイックランチ														
⑩	<p>ショートカットについてのオプションを指定。</p> <table border="1" data-bbox="231 1299 1428 1500"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>ショートカットをインターネットリンクファイルとして作成する</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>ファイルの存在可否チェックを無効にする。このオプションが有効の場合実際にファイルが存在しない場合でもショートカットを作成する。オプションが無効の場合ショートカットのリンク対象となるファイルが存在する場合ショートカットを作成しない。</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	ショートカットをインターネットリンクファイルとして作成する	1	ファイルの存在可否チェックを無効にする。このオプションが有効の場合実際にファイルが存在しない場合でもショートカットを作成する。オプションが無効の場合ショートカットのリンク対象となるファイルが存在する場合ショートカットを作成しない。								
ビット	内容														
0	ショートカットをインターネットリンクファイルとして作成する														
1	ファイルの存在可否チェックを無効にする。このオプションが有効の場合実際にファイルが存在しない場合でもショートカットを作成する。オプションが無効の場合ショートカットのリンク対象となるファイルが存在する場合ショートカットを作成しない。														

1.5.3. [RegistryItems] セクション

①	<p>ルートキーを指定。</p> <p>HKEY_CLASSES_ROOT HKEY_CURRENT_USER HKEY_LOCAL_MACHINE HKEY_USERS HKEY_CURRENT_CONFIG</p>																																												
②	サブキーを指定。																																												
③	値名を指定。																																												
④	<p>値を指定。REG_BINARY 値の場合 1 バイトずつ，記号で区切って指定する。 値にはフォルダ定数の他環境変数使用可能。</p>																																												
⑤	<p>書き込み種別を指定。</p> <table border="1" data-bbox="220 680 1434 931"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>REG_SZ</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>REG_EXPAND_SZ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>REG_DWORD</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>REG_BINARY</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>REG_MULTI_SZ</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	REG_SZ	1	REG_EXPAND_SZ	2	REG_DWORD	3	REG_BINARY	4	REG_MULTI_SZ																																
値	機能																																												
0	REG_SZ																																												
1	REG_EXPAND_SZ																																												
2	REG_DWORD																																												
3	REG_BINARY																																												
4	REG_MULTI_SZ																																												
⑥	<p>処理の実行条件を指定。項目間は，記号で区切る。</p> <table border="1" data-bbox="220 1012 1434 2058"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="276 1061 304 1093">①</td> <td data-bbox="376 1061 1426 1375"> <p>インストール時に設定を有効にするか、アンインストール時に設定を有効にするかを指定。インストール時の場合は書き込むかどうかをアンインストール時の場合は削除するかどうかの指定になる。</p> <table border="1" data-bbox="376 1178 1426 1375"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>条件を指定しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>インストール時に指定された条件を判断する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アンインストール時に指定された条件を判断する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>インストール・アンインストール時に指定された条件を判断する</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="276 1379 304 1411">②</td> <td data-bbox="376 1379 1426 1818"> <p>処理内容を設定。</p> <table border="1" data-bbox="376 1460 1426 1818"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>レジストリに該当キーが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>レジストリに該当値が存在する場合</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レジストリの該当の値が設定値の場合</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>指定ファイルが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>指定フォルダが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>INI ファイルに該当セクションが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>INI ファイルに該当値が存在する場合</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>INI ファイルの該当の値が設定値の場合</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="276 1823 304 1854">⑩</td> <td data-bbox="376 1823 1426 2058"> <p>値の書き込みタイミングを指定する。</p> <table border="1" data-bbox="376 1904 1426 2058"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>インストール時</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>アンインストール時</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>インストール時・アンインストール時</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </tbody> </table>	パラメータ	説明	①	<p>インストール時に設定を有効にするか、アンインストール時に設定を有効にするかを指定。インストール時の場合は書き込むかどうかをアンインストール時の場合は削除するかどうかの指定になる。</p> <table border="1" data-bbox="376 1178 1426 1375"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>条件を指定しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>インストール時に指定された条件を判断する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アンインストール時に指定された条件を判断する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>インストール・アンインストール時に指定された条件を判断する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	条件を指定しない	1	インストール時に指定された条件を判断する	2	アンインストール時に指定された条件を判断する	3	インストール・アンインストール時に指定された条件を判断する	②	<p>処理内容を設定。</p> <table border="1" data-bbox="376 1460 1426 1818"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>レジストリに該当キーが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>レジストリに該当値が存在する場合</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レジストリの該当の値が設定値の場合</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>指定ファイルが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>指定フォルダが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>INI ファイルに該当セクションが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>INI ファイルに該当値が存在する場合</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>INI ファイルの該当の値が設定値の場合</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	レジストリに該当キーが存在する場合	1	レジストリに該当値が存在する場合	2	レジストリの該当の値が設定値の場合	3	指定ファイルが存在する場合	4	指定フォルダが存在する場合	5	INI ファイルに該当セクションが存在する場合	6	INI ファイルに該当値が存在する場合	7	INI ファイルの該当の値が設定値の場合	⑩	<p>値の書き込みタイミングを指定する。</p> <table border="1" data-bbox="376 1904 1426 2058"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>インストール時</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>アンインストール時</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>インストール時・アンインストール時</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	インストール時	1	アンインストール時	2	インストール時・アンインストール時
パラメータ	説明																																												
①	<p>インストール時に設定を有効にするか、アンインストール時に設定を有効にするかを指定。インストール時の場合は書き込むかどうかをアンインストール時の場合は削除するかどうかの指定になる。</p> <table border="1" data-bbox="376 1178 1426 1375"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>条件を指定しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>インストール時に指定された条件を判断する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アンインストール時に指定された条件を判断する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>インストール・アンインストール時に指定された条件を判断する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	条件を指定しない	1	インストール時に指定された条件を判断する	2	アンインストール時に指定された条件を判断する	3	インストール・アンインストール時に指定された条件を判断する																																		
値	機能																																												
0	条件を指定しない																																												
1	インストール時に指定された条件を判断する																																												
2	アンインストール時に指定された条件を判断する																																												
3	インストール・アンインストール時に指定された条件を判断する																																												
②	<p>処理内容を設定。</p> <table border="1" data-bbox="376 1460 1426 1818"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>レジストリに該当キーが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>レジストリに該当値が存在する場合</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レジストリの該当の値が設定値の場合</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>指定ファイルが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>指定フォルダが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>INI ファイルに該当セクションが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>INI ファイルに該当値が存在する場合</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>INI ファイルの該当の値が設定値の場合</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	レジストリに該当キーが存在する場合	1	レジストリに該当値が存在する場合	2	レジストリの該当の値が設定値の場合	3	指定ファイルが存在する場合	4	指定フォルダが存在する場合	5	INI ファイルに該当セクションが存在する場合	6	INI ファイルに該当値が存在する場合	7	INI ファイルの該当の値が設定値の場合																										
値	機能																																												
0	レジストリに該当キーが存在する場合																																												
1	レジストリに該当値が存在する場合																																												
2	レジストリの該当の値が設定値の場合																																												
3	指定ファイルが存在する場合																																												
4	指定フォルダが存在する場合																																												
5	INI ファイルに該当セクションが存在する場合																																												
6	INI ファイルに該当値が存在する場合																																												
7	INI ファイルの該当の値が設定値の場合																																												
⑩	<p>値の書き込みタイミングを指定する。</p> <table border="1" data-bbox="376 1904 1426 2058"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>インストール時</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>アンインストール時</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>インストール時・アンインストール時</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	インストール時	1	アンインストール時	2	インストール時・アンインストール時																																				
値	機能																																												
0	インストール時																																												
1	アンインストール時																																												
2	インストール時・アンインストール時																																												

パラメータ③から⑨については下記参照

[0:レジストリに該当キーが存在する場合]

パラメータ	内容						
③	ルートキーを指定。						
④	サブキーを指定						
⑤	未使用						
⑥	未使用						
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>既に存在する場合更新しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	既に存在する場合更新しない	1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)
ビット	内容						
0	既に存在する場合更新しない						
1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)						
⑧	未使用						
⑨	未使用						

[1:レジストリに該当値が存在する場合]

パラメータ	内容						
③	ルートキーを指定。						
④	サブキーを指定						
⑤	値名を指定。 (フォルダ定数および環境変数使用可能)						
⑥	未使用						
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>既に存在する場合更新しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	既に存在する場合更新しない	1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)
ビット	内容						
0	既に存在する場合更新しない						
1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)						
⑧	未使用						
⑨	未使用						

[2:レジストリの該当の値が設定値と一致する場合]

パラメータ	内容						
③	ルートキーを指定。						
④	サブキーを指定						
⑤	値名を指定。 (フォルダ定数および環境変数使用可能)						
⑥	値を指定。 (フォルダ定数および環境変数使用可能)						
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>既に存在する場合更新しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	既に存在する場合更新しない	1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)
ビット	内容						
0	既に存在する場合更新しない						
1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)						
⑧	未使用						
⑨	未使用						

[3:指定ファイルが存在する場合]

パラメータ	内容
③	フォルダ定数を指定。
④	サブフォルダを指定。

⑤	ファイル名を指定。						
⑥	未使用						
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>既に存在する場合更新しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	既に存在する場合更新しない	1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)
ビット	内容						
0	既に存在する場合更新しない						
1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)						
⑧	未使用						
⑨	未使用						

[4:指定フォルダが存在する場合]

パラメータ	内容						
③	フォルダ定数を指定。						
④	サブフォルダを指定。						
⑤	未使用						
⑥	未使用						
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>既に存在する場合更新しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	既に存在する場合更新しない	1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)
ビット	内容						
0	既に存在する場合更新しない						
1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)						
⑧	未使用						
⑨	未使用						

[5:INI ファイルに該当セクションが存在する場合]

パラメータ	内容						
③	フォルダ定数を指定。						
④	サブフォルダおよびファイル名を指定。						
⑤	未使用						
⑥	未使用						
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>既に存在する場合更新しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	既に存在する場合更新しない	1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)
ビット	内容						
0	既に存在する場合更新しない						
1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)						
⑧	セクション名を指定。						

[6:INI ファイルに該当値が存在する場合]

パラメータ	内容						
③	フォルダ定数を指定。						
④	サブフォルダおよびファイル名を指定。						
⑤	値名を指定						
⑥	未使用						
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>既に存在する場合更新しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	既に存在する場合更新しない	1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)
ビット	内容						
0	既に存在する場合更新しない						
1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)						
⑧	セクション名を指定。						

[7:INI ファイルの該当の値が設定値と一致する場合]

パラメータ	内容
-------	----

	③	フォルダ定数を指定。						
	④	サブフォルダおよびファイル名を指定。						
	⑤	値名を指定						
	⑥	値を指定						
	⑦	オプションを指定。 <table border="1" data-bbox="375 324 1417 443"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>既に存在する場合更新しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	既に存在する場合更新しない	1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)
ビット	内容							
0	既に存在する場合更新しない							
1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)							
	⑧	セクション名を指定。						
⑦	インストール対象となる OS を指定。[OSSetting]セクションの OSVersion 値を参照							
⑧	インストール対象となる OS のサービスパックを指定。[OSSetting]セクションの SPVersion 値を参照							

※ ~~Ver.2.08a6~~～: アンインストール時に値を削除後、キー内に他の値やサブキーが存在しない場合はキーを削除する ←
Ver.2.08bにてオプション化

※—

1.5.4. [IniFileItems] セクション

①	処理を指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>指定された値を書き込む</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定された値を削除</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指定されたセクションを削除</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	指定された値を書き込む	1	指定された値を削除	2	指定されたセクションを削除
値	機能								
0	指定された値を書き込む								
1	指定された値を削除								
2	指定されたセクションを削除								
②	フォルダ定数を指定。								
③	サブフォルダを指定。								
④	ファイル名を指定。								
⑤	セクション名を指定。								
⑥	値名を指定。								
⑦	値を指定。Ver.2.08b2 より環境変数使用可能。								
⑧	インストール対象となる OS を指定。[OSSetting]セクションの OSVersion 値を参照								
⑨	インストール対象となる OS のサービスパックを指定。[OSSetting]セクションの SPVersion 値を参照								

⑩ 処理の実行条件を指定。項目間は、記号で区切る。

パラメータ	説明																		
①	<p>インストール時に設定を有効にするか、アンインストール時に設定を有効にするかを指定。インストール時の場合は書き込むかどうかをアンインストール時の場合は削除するかどうかの指定になる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>条件を指定しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>インストール時に指定された条件を判断する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アンインストール時に指定された条件を判断する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>インストール・アンインストール時に指定された条件を判断する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	条件を指定しない	1	インストール時に指定された条件を判断する	2	アンインストール時に指定された条件を判断する	3	インストール・アンインストール時に指定された条件を判断する								
値	機能																		
0	条件を指定しない																		
1	インストール時に指定された条件を判断する																		
2	アンインストール時に指定された条件を判断する																		
3	インストール・アンインストール時に指定された条件を判断する																		
②	<p>処理内容を設定。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>レジストリに該当キーが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>レジストリに該当値が存在する場合</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レジストリの該当の値が設定値の場合</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>指定ファイルが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>指定フォルダが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>INI ファイルに該当セクションが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>INI ファイルに該当値が存在する場合</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>INI ファイルの該当の値が設定値の場合</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	レジストリに該当キーが存在する場合	1	レジストリに該当値が存在する場合	2	レジストリの該当の値が設定値の場合	3	指定ファイルが存在する場合	4	指定フォルダが存在する場合	5	INI ファイルに該当セクションが存在する場合	6	INI ファイルに該当値が存在する場合	7	INI ファイルの該当の値が設定値の場合
値	機能																		
0	レジストリに該当キーが存在する場合																		
1	レジストリに該当値が存在する場合																		
2	レジストリの該当の値が設定値の場合																		
3	指定ファイルが存在する場合																		
4	指定フォルダが存在する場合																		
5	INI ファイルに該当セクションが存在する場合																		
6	INI ファイルに該当値が存在する場合																		
7	INI ファイルの該当の値が設定値の場合																		
⑩	<p>処理を行うタイミングを指定する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>インストール時</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>アンインストール時</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>インストール時・アンインストール時</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	インストール時	1	アンインストール時	2	インストール時・アンインストール時										
値	機能																		
0	インストール時																		
1	アンインストール時																		
2	インストール時・アンインストール時																		

パラメータ③～⑨については下記参照

[0:レジストリに該当キーが存在する場合]

パラメータ	内容						
③	ルートキーを指定。						
④	サブキーを指定						
⑤	未使用						
⑥	未使用						
⑦	<p>オプションを指定。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>既に存在する場合更新しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	既に存在する場合更新しない	1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)
ビット	内容						
0	既に存在する場合更新しない						
1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)						
⑧	未使用						
⑨	未使用						

[1:レジストリに該当値が存在する場合]

パラメータ	内容
③	ルートキーを指定。
④	サブキーを指定
⑤	値名を指定。

	(フォルダ定数および環境変数使用可能)						
⑥	未使用						
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>既に存在する場合更新しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	既に存在する場合更新しない	1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)
ビット	内容						
0	既に存在する場合更新しない						
1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)						
⑧	未使用						
⑨	未使用						

[2:レジストリの該当の値が設定値と一致する場合]

パラメータ	内容						
③	ルートキーを指定。						
④	サブキーを指定						
⑤	値名を指定。 (フォルダ定数および環境変数使用可能)						
⑥	値を指定。 (フォルダ定数および環境変数使用可能)						
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>既に存在する場合更新しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	既に存在する場合更新しない	1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)
ビット	内容						
0	既に存在する場合更新しない						
1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)						
⑧	未使用						
⑨	未使用						

[3:指定ファイルが存在する場合]

パラメータ	内容						
③	フォルダ定数を指定。						
④	サブフォルダを指定。						
⑤	ファイル名を指定。						
⑥	未使用						
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>既に存在する場合更新しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	既に存在する場合更新しない	1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)
ビット	内容						
0	既に存在する場合更新しない						
1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)						
⑧	未使用						
⑨	未使用						

[4:指定フォルダが存在する場合]

パラメータ	内容						
③	フォルダ定数を指定。						
④	サブフォルダを指定。						
⑤	未使用						
⑥	未使用						
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>既に存在する場合更新しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	既に存在する場合更新しない	1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)
ビット	内容						
0	既に存在する場合更新しない						
1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)						
⑧	未使用						

⑨	未使用
---	-----

[5:INI ファイルに該当セクションが存在する場合]

パラメータ	内容						
③	フォルダ定数を指定。						
④	サブフォルダおよびファイル名を指定。						
⑤	未使用						
⑥	未使用						
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>既に存在する場合更新しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	既に存在する場合更新しない	1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)
ビット	内容						
0	既に存在する場合更新しない						
1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)						
⑧	セクション名を指定。						

[6:INI ファイルに該当値が存在する場合]

パラメータ	内容						
③	フォルダ定数を指定。						
④	サブフォルダおよびファイル名を指定。						
⑤	値名を指定						
⑥	未使用						
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>既に存在する場合更新しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	既に存在する場合更新しない	1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)
ビット	内容						
0	既に存在する場合更新しない						
1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)						
⑧	セクション名を指定。						

[7:INI ファイルの該当の値が設定値と一致する場合]

パラメータ	内容						
③	フォルダ定数を指定。						
④	サブフォルダおよびファイル名を指定。						
⑤	値名を指定						
⑥	値を指定						
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>既に存在する場合更新しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	既に存在する場合更新しない	1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)
ビット	内容						
0	既に存在する場合更新しない						
1	指定セクション内に別の値が存在しない場合はセクションごと削除する(アンインストール時)						
⑧	セクション名を指定。						

1.5.5. [ProgramItems] セクション

①	設定を有効にするかどうかを指定。 <table border="1" data-bbox="231 235 1428 358"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>有効にする (デフォルト)</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>無効にする</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	1	有効にする (デフォルト)	0	無効にする						
値	機能												
1	有効にする (デフォルト)												
0	無効にする												
②	フォルダ定数含めたフォルダを指定。												
③	②で指定したフォルダ定数に対するファイル名を指定。実行ファイル以外のファイルを指定する場合インストール対象のシステムにおいてファイルの関連付けが行われていない場合は処理されない。												
④	引数を指定。省略可能。												
⑤	起動時のウィンドウサイズを指定。 <table border="1" data-bbox="231 609 1428 772"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>標準 (デフォルト)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>最小化</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>最大化</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	標準 (デフォルト)	1	最小化	2	最大化				
値	機能												
0	標準 (デフォルト)												
1	最小化												
2	最大化												
⑥	処理を指定。 <table border="1" data-bbox="231 857 1428 1104"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>ユーザーの指定により起動するかどうかを判断する (デフォルト)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>インストール終了後に実行</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アンインストール前に実行</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>インストール処理前に実行 (ファイルのコピー前)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>インストール処理前に実行 (ファイルのコピー後)</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	ユーザーの指定により起動するかどうかを判断する (デフォルト)	1	インストール終了後に実行	2	アンインストール前に実行	3	インストール処理前に実行 (ファイルのコピー前)	4	インストール処理前に実行 (ファイルのコピー後)
値	機能												
0	ユーザーの指定により起動するかどうかを判断する (デフォルト)												
1	インストール終了後に実行												
2	アンインストール前に実行												
3	インストール処理前に実行 (ファイルのコピー前)												
4	インストール処理前に実行 (ファイルのコピー後)												
⑦	オプションを指定。 <table border="1" data-bbox="231 1189 1428 1505"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>実行したプログラムが終了するまでの間、次のプログラムの実行またはインストーラの終了処理を待機する。「アンインストール前に実行」および「インストール処理前に実行」する場合はこのオプションは常に有効。なお、プログラムファイル以外の場合でも終了するまで待機する。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>プログラムの実行に、CreateProcess API を使用するかを指定する。通常は ShellExecuteEx API を使用する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ファイル実行前に、確認メッセージを表示する。 処理にて、「0:ユーザーの指定により起動するかどうかを判断する」以外が選択されている場合のみ有効。確認メッセージ中に表示する項目内容については⑩のパラメータ③で指定する。</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	説明	0	実行したプログラムが終了するまでの間、次のプログラムの実行またはインストーラの終了処理を待機する。「アンインストール前に実行」および「インストール処理前に実行」する場合はこのオプションは常に有効。なお、プログラムファイル以外の場合でも終了するまで待機する。	1	プログラムの実行に、CreateProcess API を使用するかを指定する。通常は ShellExecuteEx API を使用する。	2	ファイル実行前に、確認メッセージを表示する。 処理にて、「0:ユーザーの指定により起動するかどうかを判断する」以外が選択されている場合のみ有効。確認メッセージ中に表示する項目内容については⑩のパラメータ③で指定する。				
ビット	説明												
0	実行したプログラムが終了するまでの間、次のプログラムの実行またはインストーラの終了処理を待機する。「アンインストール前に実行」および「インストール処理前に実行」する場合はこのオプションは常に有効。なお、プログラムファイル以外の場合でも終了するまで待機する。												
1	プログラムの実行に、CreateProcess API を使用するかを指定する。通常は ShellExecuteEx API を使用する。												
2	ファイル実行前に、確認メッセージを表示する。 処理にて、「0:ユーザーの指定により起動するかどうかを判断する」以外が選択されている場合のみ有効。確認メッセージ中に表示する項目内容については⑩のパラメータ③で指定する。												

- ⑧ プログラムの実行条件を指定。パラメータ間は、記号で区切る。

パラメータ	説明																		
①	<p>条件設定を有効にするかどうかを指定。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>有効にする</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>無効にする (デフォルト)</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	1	有効にする	0	無効にする (デフォルト)												
値	機能																		
1	有効にする																		
0	無効にする (デフォルト)																		
②	<p>処理内容を設定。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>レジストリに該当キーが存在する場合 (デフォルト)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>レジストリに該当値が存在する場合</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レジストリの該当の値が設定値の場合</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>指定ファイルが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>指定フォルダが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>INI ファイルに該当セクションが存在する場合</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>INI ファイルに該当値が存在する場合</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>INI ファイルの該当の値が設定値の場合</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	レジストリに該当キーが存在する場合 (デフォルト)	1	レジストリに該当値が存在する場合	2	レジストリの該当の値が設定値の場合	3	指定ファイルが存在する場合	4	指定フォルダが存在する場合	5	INI ファイルに該当セクションが存在する場合	6	INI ファイルに該当値が存在する場合	7	INI ファイルの該当の値が設定値の場合
値	機能																		
0	レジストリに該当キーが存在する場合 (デフォルト)																		
1	レジストリに該当値が存在する場合																		
2	レジストリの該当の値が設定値の場合																		
3	指定ファイルが存在する場合																		
4	指定フォルダが存在する場合																		
5	INI ファイルに該当セクションが存在する場合																		
6	INI ファイルに該当値が存在する場合																		
7	INI ファイルの該当の値が設定値の場合																		

パラメータ③から⑥については下記参照。

[0:レジストリに該当キーが存在する場合]

パラメータ	内容				
③	ルートキーを指定。				
④	サブキーを指定				
⑤	未使用				
⑥	未使用				
⑦	<p>オプションを指定。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>条件を反転する。</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	条件を反転する。
ビット	内容				
0	条件を反転する。				
⑧	未使用				
⑨	未使用				

[1:レジストリに該当値が存在する場合]

パラメータ	内容				
③	ルートキーを指定。				
④	サブキーを指定				
⑤	<p>値名を指定。</p> <p>(フォルダ定数および環境変数使用可能)</p>				
⑥	未使用				
⑦	<p>オプションを指定。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>条件を反転する</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	条件を反転する
ビット	内容				
0	条件を反転する				
⑧	未使用				
⑨	未使用				

[2:レジストリの該当の値が設定値と一致する場合]

パラメータ	内容
③	ルートキーを指定。

④	サブキーを指定				
⑤	値名を指定。 (フォルダ定数および環境変数使用可能)				
⑥	値を指定。 (フォルダ定数および環境変数使用可能)				
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> <tr> <td>0</td> <td>条件を反転する</td> </tr> </table>	ビット	内容	0	条件を反転する
ビット	内容				
0	条件を反転する				
⑧	未使用				
⑨	未使用				

[3:指定ファイルが存在する場合]

パラメータ	内容				
③	フォルダ定数を指定。				
④	サブフォルダを指定。				
⑤	ファイル名を指定。				
⑥	未使用				
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> <tr> <td>0</td> <td>条件を反転する</td> </tr> </table>	ビット	内容	0	条件を反転する
ビット	内容				
0	条件を反転する				
⑧	未使用				
⑨	未使用				

[4:指定フォルダが存在する場合]

パラメータ	内容				
③	フォルダ定数を指定。				
④	サブフォルダを指定。				
⑤	未使用				
⑥	未使用				
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> <tr> <td>0</td> <td>条件を反転する</td> </tr> </table>	ビット	内容	0	条件を反転する
ビット	内容				
0	条件を反転する				
⑧	未使用				
⑨	未使用				

[5:INI ファイルに該当セクションが存在する場合]

パラメータ	内容				
③	フォルダ定数を指定。				
④	サブフォルダおよびファイル名を指定。				
⑤	未使用				
⑥	未使用				
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> <tr> <td>0</td> <td>条件を反転する</td> </tr> </table>	ビット	内容	0	条件を反転する
ビット	内容				
0	条件を反転する				
⑧	セクション名を指定。				

[6:INI ファイルに該当値が存在する場合]

パラメータ	内容
-------	----

③	フォルダ定数を指定。				
④	サブフォルダおよびファイル名を指定。				
⑤	値名を指定				
⑥	未使用				
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> <tr> <td>0</td> <td>条件を反転する</td> </tr> </table>	ビット	内容	0	条件を反転する
ビット	内容				
0	条件を反転する				
⑧	セクション名を指定。				

[7:INI ファイルの該当の値が設定値と一致する場合]

パラメータ	内容				
③	フォルダ定数を指定。				
④	サブフォルダおよびファイル名を指定。				
⑤	値名を指定				
⑥	値を指定				
⑦	オプションを指定。 <table border="1"> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> <tr> <td>0</td> <td>条件を反転する</td> </tr> </table>	ビット	内容	0	条件を反転する
ビット	内容				
0	条件を反転する				
⑧	セクション名を指定。				

⑨ インストール対象となる OS を指定。[OSSetting]セクションの OSVersion 値を参照

⑩ インストール対象となる OS のサービスパックを指定。[OSSetting]セクションの SPVersion 値を参照

⑪ ファイル実行前の確認メッセージの内容およびインストール完了時に表示するチェックボックスについて指定。~~この指定は⑥で0 (ユーザーの指定により起動するかを判断)以外が指定されている場合は無条件に0になる。~~ただし、パラメータ③に関しては⑦のビット2にて確認メッセージを表示する設定になっている場合は有効とする。

[オプション⑦にてビット2がONの場合]

パラメータ	説明
①	未使用
②	未使用
③	チェックボックスに表示するキャプションを指定

[オプション⑦にてビット2がOFFの場合]

パラメータ	説明						
④	項目を表示するかを指定。 <table border="1"> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>表示する (デフォルト)</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>表示しない</td> </tr> </table>	値	機能	1	表示する (デフォルト)	0	表示しない
値	機能						
1	表示する (デフォルト)						
0	表示しない						
⑤	初期のチェックボックス状態を指定。 <table border="1"> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効 (デフォルト)</td> </tr> </table>	値	機能	0	無効	1	有効 (デフォルト)
値	機能						
0	無効						
1	有効 (デフォルト)						
③	チェックボックスに表示するキャプションを指定						

1.5.6. [DeleteFileItems]セクション

①	削除対象を指定。 <table border="1" data-bbox="220 235 1444 398"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>ファイル</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>フォルダ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指定した拡張子のファイル</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	ファイル	1	フォルダ	2	指定した拡張子のファイル
値	機能								
0	ファイル								
1	フォルダ								
2	指定した拡張子のファイル								
②	フォルダ定数を指定。								
③	サブフォルダを指定。								
④	ファイル名を指定。								
⑤	拡張子を指定。*や?などのワイルドカードを使用して複数のファイルを指定可能。								
⑥	予約								
⑦	ファイル削除時のオプションを指定。 <table border="1" data-bbox="220 689 1444 772"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>削除時に確認メッセージを表示する。</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	説明	0	削除時に確認メッセージを表示する。				
ビット	説明								
0	削除時に確認メッセージを表示する。								
⑧	インストール対象となる OS を指定。[OSSetting]セクションの OSVersion 値を参照								
⑨	インストール対象となる OS のサービスパックを指定。[OSSetting]セクションの SPVersion 値を参照								

1.5.7. [DeleteRegistryItems] セクション

①	削除単位を指定。 <table border="1" data-bbox="220 237 1434 360"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>キー単位で削除</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>値単位で削除</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	キー単位で削除	1	値単位で削除		
値	機能								
0	キー単位で削除								
1	値単位で削除								
②	ルートキーを指定。 HKEY_CLASSES_ROOT HKEY_CURRENT_USER HKEY_LOCAL_MACHINE HKEY_USERS HKEY_CURRENT_CONFIG								
③	ルートキーに対するサブキーを指定。								
④	値名を指定。「キー単位で削除」が選択されている場合には無視する。								
⑤	レジストリ削除時のオプションを指定。 <table border="1" data-bbox="220 808 1434 1055"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>サブキーまたは値が存在する場合は指定されたキーを削除しない。 ①にて0が指定されている場合のみ有効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>サブキーまたは値が存在する場合でも指定キーを削除する。 ①にて0が指定されている場合のみ有効。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>削除時に確認メッセージを表示する。</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	説明	0	サブキーまたは値が存在する場合は指定されたキーを削除しない。 ①にて0が指定されている場合のみ有効	1	サブキーまたは値が存在する場合でも指定キーを削除する。 ①にて0が指定されている場合のみ有効。	2	削除時に確認メッセージを表示する。
ビット	説明								
0	サブキーまたは値が存在する場合は指定されたキーを削除しない。 ①にて0が指定されている場合のみ有効								
1	サブキーまたは値が存在する場合でも指定キーを削除する。 ①にて0が指定されている場合のみ有効。								
2	削除時に確認メッセージを表示する。								
⑥	予約								
⑦	インストール対象となる OS を指定。[OSSetting]セクションの OSVersion 値を参照								
⑧	インストール対象となる OS のサービスパックを指定。[OSSetting]セクションの SPVersion 値を参照								

1.5.8. [CollectUnInstallItems] セクション

①	設定を有効にするか無効にするかを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>無効</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>有効 (デフォルト)</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	無効	1	有効 (デフォルト)
値	機能						
0	無効						
1	有効 (デフォルト)						
②	アンインストールキーを指定。 <code>HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall</code>						
③	予約						
④	予約						
⑤	予約						
⑥	予約						
⑦	アプリケーションアンインストール時のオプションを指定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>予約</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	説明	0	予約		
ビット	説明						
0	予約						
⑧							
⑨	インストール対象となる OS を指定。[OSSetting]セクションの OSVersion 値を参照						
⑩	インストール対象となる OS のサービスパックを指定。[OSSetting]セクションの SPVersion 値を参照						

1.6. アンインストール

ここではアンインストール時に使用されるセクション項目についての詳細を記載しています。

これらのセクションはインストール時にアンインストール用の情報として作成されるもので、アンインストール機能が有効になっていない場合は作成しない。

1.6.1. [UnInstallFile]セクション

①	インストール時に行われた処理
②	インストール先のフォルダ
③	ファイル名
④	インストール時に使用されたオプション値
⑤	バックアップファイル名 インストール時に既にファイルが存在する場合別名として保存する機能を使用した場合に設定される。 このファイル名を元にアンインストール処理において、バックアップファイルを

※ このセクション内のデータはインストール時の項目と同じ順番で作成される。

※ アンインストール時 **Active X** などのコントロールの依存に関する対応のため、逆順に処理を行う。
逆順に処理を行わない場合、依存性の関係から解除処理においてエラーが発生する場合があります。

1.6.2. [UnInstallIniFile]セクション

①	インストール時に処理したファイル名。						
②	インストール時に対象としたセクション名。						
③	インストール時に対象とした値名。						
④	インストール時に書き込まれていた値。値が存在しなかった場合この項目は空白。						
⑤	インストール時に値が存在していたかどうかを記録。ファイル自体が存在しなかった場合はこの値は無条件に無効。 <table border="1" data-bbox="231 398 1428 524"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>値はインストール時には存在しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>値はインストール時に既に存在していた。この場合②以降のデータを使用してインストール前の状態に復元する。</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	値はインストール時には存在しない	1	値はインストール時に既に存在していた。この場合②以降のデータを使用してインストール前の状態に復元する。
値	機能						
0	値はインストール時には存在しない						
1	値はインストール時に既に存在していた。この場合②以降のデータを使用してインストール前の状態に復元する。						
⑥	インストール時に INI ファイルが存在していたかどうかを記録。 <table border="1" data-bbox="231 607 1428 730"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>INI ファイルはインストール時には存在しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>INI ファイルはインストール時に既に存在していた</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	INI ファイルはインストール時には存在しない	1	INI ファイルはインストール時に既に存在していた
値	機能						
0	INI ファイルはインストール時には存在しない						
1	INI ファイルはインストール時に既に存在していた						

1.6.3. [UnInstallRegistry]セクション

①	インストール時に値が存在していたかどうかを記録。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>値はインストール時には存在しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>値はインストール時に既に存在していた。この場合②以降のデータを使用してインストール前の状態に復元する。</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	値はインストール時には存在しない	1	値はインストール時に既に存在していた。この場合②以降のデータを使用してインストール前の状態に復元する。						
値	機能												
0	値はインストール時には存在しない												
1	値はインストール時に既に存在していた。この場合②以降のデータを使用してインストール前の状態に復元する。												
②	インストール時に対象としたルートキー。 HKEY_CLASSES_ROOT HKEY_CURRENT_USER HKEY_LOCAL_MACHINE HKEY_USERS HKEY_CURRENT_CONFIG												
③	インストール時に対象としたサブキー。												
④	インストール時に対象とした値名。												
⑤	インストール時に書き込まれていた値。値名が存在しなかった場合この項目は空白。												
⑥	インストール時に書き込まれていた値の種類。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>REG_SZ</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>REG_EXPAND_SZ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>REG_DWORD</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>REG_BINARY</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>REG_MULTI_SZ</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	REG_SZ	1	REG_EXPAND_SZ	2	REG_DWORD	3	REG_BINARY	4	REG_MULTI_SZ
値	機能												
0	REG_SZ												
1	REG_EXPAND_SZ												
2	REG_DWORD												
3	REG_BINARY												
4	REG_MULTI_SZ												
⑦	インストール時に使用された実行条件。												

※現状、REG_MULTI_SZ で記録されていた項目に関しては値は保持していない。アンインストール項目を削除する。

1.7. 条件指定

1.7.1. [UnDeleteFileItems] セクション

①	種別を指定。										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>指定ファイルを削除しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定フォルダを削除しない</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指定拡張子に該当するファイルを削除しない</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>指定フォルダを削除しない(フォルダ内のファイル含む)</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	指定ファイルを削除しない	1	指定フォルダを削除しない	2	指定拡張子に該当するファイルを削除しない	3	指定フォルダを削除しない(フォルダ内のファイル含む)
	値	機能									
	0	指定ファイルを削除しない									
	1	指定フォルダを削除しない									
2	指定拡張子に該当するファイルを削除しない										
3	指定フォルダを削除しない(フォルダ内のファイル含む)										
②	フォルダ定数を指定。										
③	サブフォルダを指定。										
④	ファイル名を指定。										
⑤	拡張子を指定。*や?などのワイルドカードを使用して複数のファイルを指定可能。										
⑥	インストール対象となる OS を指定。[OSSetting]セクションの OSVersion 値を参照										
⑦	インストール対象となる OS のサービスパックを指定。[OSSetting]セクションの SPVersion 値を参照										

1.7.2. [UnDeleteRegistryItems] セクション

①	削除単位を指定。								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>指定値と一致する場合削除しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>指定キーと一致する場合削除しない</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指定キーを含む場合削除しない</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	指定値と一致する場合削除しない	1	指定キーと一致する場合削除しない	2	指定キーを含む場合削除しない
値	機能								
0	指定値と一致する場合削除しない								
1	指定キーと一致する場合削除しない								
2	指定キーを含む場合削除しない								
②	<p>ルートキーを指定。</p> <p>HKEY_CLASSES_ROOT HKEY_CURRENT_USER HKEY_LOCAL_MACHINE HKEY_USERS HKEY_CURRENT_CONFIG</p>								
③	ルートキーに対するサブキーを指定。								
④	値名を指定。								
⑤	予約								
⑥	予約								
⑦	インストール対象となる OS を指定。[OSSetting]セクションの OSVersion 値を参照								
⑧	インストール対象となる OS のサービスパックを指定。[OSSetting]セクションの SPVersion 値を参照								

※Ver.2.11 よりサポート

1.7.3. [InstallProcessOrderItems] セクション

インストール時の各種処理を行うかどうかをまたその順番を指定する。

①	処理を行うかどうかを指定。																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>処理しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>処理する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	処理しない	1	処理する												
値	機能																		
0	処理しない																		
1	処理する																		
②	プロセス種別を指定。																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>Files セクション処理</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>ShortCutItems セクション処理</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>RegistryItems セクション処理</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>IniFileItems セクション処理</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>DeleteFileItems セクション処理</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>DeleteRegistryItems セクション処理</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ProgramItems (ファイルコピー前に実行項目) ※Files セクションの処理より後ろにある場合この設定は無効となる。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ProgramItems (ファイルコピー後に実行項目) ※Files セクションの処理より前にある場合この設定は無効となる。</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	Files セクション処理	1	ShortCutItems セクション処理	2	RegistryItems セクション処理	3	IniFileItems セクション処理	4	DeleteFileItems セクション処理	5	DeleteRegistryItems セクション処理	6	ProgramItems (ファイルコピー前に実行項目) ※Files セクションの処理より後ろにある場合この設定は無効となる。	7	ProgramItems (ファイルコピー後に実行項目) ※Files セクションの処理より前にある場合この設定は無効となる。
値	機能																		
0	Files セクション処理																		
1	ShortCutItems セクション処理																		
2	RegistryItems セクション処理																		
3	IniFileItems セクション処理																		
4	DeleteFileItems セクション処理																		
5	DeleteRegistryItems セクション処理																		
6	ProgramItems (ファイルコピー前に実行項目) ※Files セクションの処理より後ろにある場合この設定は無効となる。																		
7	ProgramItems (ファイルコピー後に実行項目) ※Files セクションの処理より前にある場合この設定は無効となる。																		
③	予約																		
④	予約																		
⑤	予約																		
⑥	予約																		
⑦	インストール対象となる OS を指定。[OSSetting]セクションの OSVersion 値を参照																		
⑧	インストール対象となる OS のサービスパックを指定。[OSSetting]セクションの SPVersion 値を参照																		

※ Ver.2.13 以降よりサポート

1.7.4. [UninstallProcessOrderItems] セクション

アンインストール時の各種処理の順番および処理の有無を変更する場合に使用する。

①	処理を行うかどうかを指定。																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>処理しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>処理する</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	処理しない	1	処理する												
値	機能																		
0	処理しない																		
1	処理する																		
②	プロセス種別を指定する。																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>Files セクション処理</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>ShortCutItems セクション処理</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>RegistryItems セクション処理</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>IniFileItems セクション処理</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>DeleteFileItems セクション処理</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>DeleteRegistryItems セクション処理</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ProgramItems (ファイルの削除前に実行項目) ※Files セクションの処理より後ろにある場合この設定は無効となる。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ProgramItems (ファイルの削除後に実行項目) ※Files セクションの処理より前にある場合この設定は無効となる。</td> </tr> </tbody> </table>	値	機能	0	Files セクション処理	1	ShortCutItems セクション処理	2	RegistryItems セクション処理	3	IniFileItems セクション処理	4	DeleteFileItems セクション処理	5	DeleteRegistryItems セクション処理	6	ProgramItems (ファイルの削除前に実行項目) ※Files セクションの処理より後ろにある場合この設定は無効となる。	7	ProgramItems (ファイルの削除後に実行項目) ※Files セクションの処理より前にある場合この設定は無効となる。
値	機能																		
0	Files セクション処理																		
1	ShortCutItems セクション処理																		
2	RegistryItems セクション処理																		
3	IniFileItems セクション処理																		
4	DeleteFileItems セクション処理																		
5	DeleteRegistryItems セクション処理																		
6	ProgramItems (ファイルの削除前に実行項目) ※Files セクションの処理より後ろにある場合この設定は無効となる。																		
7	ProgramItems (ファイルの削除後に実行項目) ※Files セクションの処理より前にある場合この設定は無効となる。																		
③	予約																		
④	予約																		
⑤	予約																		
⑥	予約																		
⑦	インストール対象となる OS を指定。[OSSetting]セクションの OSVersion 値を参照																		
⑧	インストール対象となる OS のサービスパックを指定。[OSSetting]セクションの SPVersion 値を参照																		

※ Ver.2.13 以降よりサポート

1.8. デフォルト値一覧

各プロジェクトファイル内の各値について省略した際のデフォルト値を掲載。また、必須項目は省略できないため未記載。なお、各項目で不正な値が設定されている場合も下記で記載しているデフォルト値を使用する。各値の詳細については各章を参照のこと

1.8.1. [Project]セクション

値名	値	データ型	書式
CreateDateTime	現在日時	日付型	yyyy/mm/dd hh:mm:ss
UpdateDateTime	現在日時	日付型	yyyy/mm/dd hh:mm:ss
UseUniqueKey	0	数値型	N/A
CreateFileAddVersionInfo	0	数値型	N/A
CreateFileNameOption	0	数値型	N/A
CreateFileLowerFileName	0	数値型	N/A
CreateFileType	2	数値型	N/A
CreateFileCompLevel	1	数値型	N/A
InstallerModuleName	EL_MODERN	文字列型	
InstallerModuleKey		文字列型	
InstallerModuleLanguage	1041	数値型	N/A

1.8.2. [Software]セクション

値名	値	データ型	書式
MajorVersion	1	数値型	N/A
MinorVersion	0	数値型	N/A
ReleaseVersion	0	数値型	N/A
BuildVersion	0	数値型	N/A
OtherVersion	0	数値型	N/A
AlwaysAgree	0	数値型	N/A
ReadLicenseTillTheLast	1	数値型	N/A
LogoEnabled	0	数値型	N/A
LogoNoResize	0	数値型	N/A
LogoNoCenter	0	数値型	N/A
LogoNoHeaderMes	0	数値型	N/A
LogoTransparent	0	数値型	N/A
LogoSize	0 0	文字列型	N/A
LogoPosition	0 0 0	文字列型	N/A

1.8.3. [Installer]セクション

値名	値	データ型	書式
EnableFilesSetting	1	数値型	N/A
EnableShortSutSetting	0	数値型	N/A
EnableRegistrySetting	0	数値型	N/A
EnableIniFileSetting	0	数値型	N/A
EnableUnDeleteFileSetting	0	数値型	N/A
EnableProgramSetting	0	数値型	N/A
EnableDeleteFileSetting	0	数値型	N/A
EnableDeleteRegistrySetting	0	数値型	N/A
EnableUnDeleteFileSetting	0	数値型	N/A

EnableUnDeleteRegistrySetting	0	数値型	N/A
EnableInstallProcessOrderSetting	0	数値型	N/A
EnableUnInstallProcessOrderSetting	0	数値型	N/A
EnableUnInstallSetting	1	数値型	N/A
EnableSilentUnInstall	0	数値型	N/A
EnableSupportInfo	0	数値型	N/A
InstallMethod	0	数値型	N/A
FileCopyOptions	0	数値型	N/A
Options	0	数値型	N/A
UnInstallerStoreFolder	%WindowsDirectory%	文字列型	N/A
UnInstallerStoreSubFolder	N/A	文字列型	N/A
UnInstallerFileName	eiunin21.exe	文字列型	N/A
UnInstallerOptions	1	数値型	N/A

1.8.4. [InstallLimit]セクション

値名	値	データ型	書式
Date	N/A (該当する値は存在しない)	日付型	yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PC	N/A (該当する値は存在しない)	文字列型	N/A
User	0	数値型	N/A
EndFileRenOperation	0	数値型	N/A
FileUseCheck	0	数値型	N/A

1.8.5. [ScreenSetting]セクション

値名	値	データ型	書式
Panel01	1	数値型	N/A
Panel02	0	数値型	N/A
Panel03	0	数値型	N/A
Panel04	1	数値型	N/A
Panel05	1	数値型	N/A
Panel06	1	数値型	N/A
Panel07	1	数値型	N/A
Panel08	1	数値型	N/A
Panel09	1	数値型	N/A
Panel10	1	数値型	N/A
Panel11	0	数値型	N/A

1.8.6. [FilesSetting]セクション

値名	値	データ型	書式
UseSection	Files	文字列型	N/A
ExcludeCommonComponent	0	数値型	N/A

1.8.7. [ShortCutSetting]セクション

値名	値	データ型	書式
GroupName	空白	文字列型	N/A
VisibleSelectUser	1	数値型	N/A
CheckSelectUser	0	数値型	N/A
EnableSelectUser	1	数値型	N/A
ShowCheckBox	1	数値型	N/A

DefaultCheckBox	0	数値型	N/A
UseSection	ShortCutItems	文字列型	N/A

1.8.8. [RegistrySetting]セクション

値名	値	データ型	書式
UseSection	RegistryItems	文字列型	N/A

1.8.9. [IniFileSetting]セクション

値名	値	データ型	書式
UseSection	IniFileItems	文字列型	N/A

1.8.10. [ProgramSetting]セクション

値名	値	データ型	書式
CheckBoxCaption	今すぐ実行する	文字列型	N/A
DefaultCheckBoxState	0	数値型	N/A
EnableGroupCheckBox	1	数値型	N/A
UseSection	ProgramItems	文字列型	N/A

1.8.11. [SupportInfoSetting]

値名	値	データ型	書式
UseSection	SupportInfo	文字列型	N/A

1.8.12. [DeleteFileSetting]

値名	値	データ型	書式
UseSection	DeleteFileItems	文字列型	N/A

1.8.13. [DeleteRegistrySetting]

値名	値	データ型	書式
UseSection	DeleteRegistryItems	文字列型	N/A

1.8.14. [UnDeleteFileSetting]

値名	値	データ型	書式
UseSection	UnDeleteFileItems	文字列型	N/A

1.8.15. [UnDeleteRegistrySetting]

値名	値	データ型	書式
UseSection	UnDeleteRegistryItems	文字列型	N/A

1.8.16. [InstallProcessOrderSetting]

値名	値	データ型	書式
UseSection	InstallProcessOrderItems	文字列型	N/A

1.8.17. [UnInstallProcessOrderSetting]

値名	値	データ型	書式
UseSection	UnInstallProcessOrderItems	文字列型	N/A

19. プロジェクトファイルで使用可能な文字

- A) 漢字
- B) ひらがな、カタカナ(半角含む)
- C) アルファベット、数字
- D) 記号

上記使用可能文字においてもそれぞれの項目によっては使用できない場合がある。例としてファイルやフォルダを指定する場合には Windows のシステムで使用不可能な文字を使用することはできない。